

チエック問題

解答は左ページ

1 (1)四段動詞「読む」の活用表を完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
読む							

(2) () の中の四段動詞を正しく活用させよ。
月もなく、雪も(降る)ず。

抜き出しの語

2 (1)上二段動詞「落つ」の活用表を完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
落つ							

(2)次の中から上二段動詞を抜き出し、終止形になおせ。
大路を過ぐるものの、声高に人よぶ。

抜き出しの語

終止形

3 (1)下二段動詞「寝」の活用表をひらがなで完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
寝							

(2)次の中から下二段動詞を抜き出し、終止形になおせ。
見慣れたるやうに覚ゆるを、

抜き出しの語

終止形

4 (1)上一段動詞「率る」の活用をひらがなで完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
率る							

(2)次の中から上一段動詞を抜き出し、終止形になおせ。
衣着ぬ妻子たちなども、さながら内にありけり。

抜き出しの語

終止形

五十音図の五段 (a i u e o) のうち、

▼四段活用

は「a・i・u・e」の四つの段で活用する。

▼上二段活用

は真ん中を入れて上二つの段の「i・u」で活用する。

▼下二段活用

は真ん中を入れて下二つの段の「u・e」で活用する。

▼上一段活用

は真ん中から上に一段の「i」のみで活用する。

▼下一段活用

は真ん中から下に一段の「e」のみで活用する。

活用の種類を確認したい動詞の下に、助動詞「ず」をつけて未然形にし、「ず」の前の音を確認するよ。

▼四段活用 ↓「a / i / u / u / e / e」と活用する。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
知る	知	ら(ら)	り(り)	る(る)	る(る)	れ(れ)	れ(れ)

*未然形がa段音となる。

▼上二段活用 ↓「i / i / u / u / u / u / e / e」と活用する。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
起く	起	き(き)	き(き)	く(く)	くる(くる)	くれ(くれ)	きよ(きよ)

*未然形がi段音となる。ヤ行上二段動詞は「老ゆ」「悔ゆ」「報ゆ」のみ。

▼下二段活用 ↓「e / e / u / u / u / u / e / e」と活用する。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
考ふ	考	へ(へ)	へ(へ)	ふ(ふ)	ふる(ふる)	ふれ(ふれ)	へよ(へよ)

*未然形がe段音となる。

*ア行下二段動詞は、「得」及び「得」の複合動詞(剛心得)のみ。

*ワ行下二段動詞は、「植う」「飢う」「据う」のみ。

*「得(ア行)」「寝(ナ行)」「経(ハ行)」は語幹と語尾の区別がない。

▼上一段活用 ↓「i / i / i / i / i / i / e / e」と活用する。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
見る	見	み(み)	み(み)	みる(みる)	みる(みる)	みれ(みれ)	みよ(みよ)

*主な語は次の通り。「干る」「射る」「鋳る」「着る」「似る」「見る」「居る」「率る」など。「ひいきにみゐる」と覚ゆる。

*「射る」「鋳る」はヤ行、「居る」「率る」はワ行で活用する。

▼下一段活用 ↓「e / e / e / e / e / e / e / e」と活用する。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
蹴る		け(け)	け(け)	ける(ける)	ける(ける)	けれ(けれ)	けよ(けよ)

*下一段動詞は「蹴る」一語のみなので、覚えておくこと。

▼力行変格活用(カ変)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
来 ^く	○	こ	き	く	くる	くれ	こ (こよ)

*カ変動詞は「来」及び「来」の複合動詞(例「持て来^く」)のみ。

*カ変動詞を漢字で書いた場合、未然形、連用形、終止形、命令形がすべて「来」となるので、読み方に注意すること。

▼サ行変格活用(サ変)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す	○	せ	し	す	する	すれ	せよ

*サ変動詞は「す」「おはす」のみ。「具^ぐす」「ものす」「念^{ねん}ず」など複合動詞は多数あるので注意する。「す」は現代語の「する」と同じようにさまざまな複合動詞を作る。

*「念ず」「命ず」など終止形が「ず」で終わるものもサ変動詞である。

▼ナ行変格活用(ナ変)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
死ぬ	死	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね

*ナ変動詞は「死ぬ」「往^いぬ」「去^きぬ(去ぬ)」の二語のみ。

*「死す」はサ変の複合動詞なので注意すること。

▼ラ行変格活用(ラ変)

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
あり	あ	ら	り	り	る	れ	れ

*ラ変動詞は「あり」「居^ゐり」「侍^{はべ}り」「いまそがり(いますがり)」の四語である。

*ラ変動詞の終止形だけが「り」段音ではないので注意すること。

チエック問題

解答は左ページ

1 (1) 動詞「来」の活用表をひらがなで完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
来 ^く							

(2) 次の中から力変動詞を抜き出し、活用形を答えよ。
持て来る人

抜き出しの語

活用形

2 (1) 動詞「す」の活用表を完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す							

(2) 次の中からサ変動詞を抜き出し、活用形を答えよ。

妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきなり。

抜き出しの語

活用形

3 (1) 動詞「往ぬ」の活用表を完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
往 ^い ぬ							

(2) 次の()の中の語を正しく活用させよ。

わびはてて(死ぬ)命をすくひやはせぬ。

4 (1) 動詞「居り」の活用表を完成させよ。

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
居 ^ゐ り							

(2) 次の()の中の語を正しく活用させよ。

ただいま天には何事か(侍り)。

チエック問題(14~15ページ)解答

1 (1) ○ / こ / き / く / くる / くれ / こ (こよ) (2) 来る / 連体形
せ / し / す / する / すれ / せよ (2) し / 連用形 3 (1) 往 / な / に / ぬ / ぬ
る / ぬれ / ね (2) 死ぬる 4 (1) 居 / ら / り / り / る / れ / れ (2) 侍る

6 形容詞・形容動詞

形容詞

形容詞の活用には、「ク活用」と「シク活用」の二種類がある。

▼ク活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なし	な	から	かり	し	き	けれ	かれ

▼シク活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
うれし	うれ	しから	しかり	し	しき	しけれ	しかれ

*ク活用とシク活用を見分けるには、形容詞の直後に動詞「なる」を付けて連用形にするとよい。

○「なくなる」のように「く」となるものはク活用。

○「うれしくなる」のように「しく」となるものはシク活用。

*活用表の右側の活用を本活用、左側の活用を補助活用（カリ活用）と呼ぶ。直後に助動詞が続く場合は補助活用を用いるのが基本。

○語幹の用法

①名詞(a)+を+形容詞の語幹(b)+み || aがbなので

例 瀬をはやみ || 流れが速いので

*「を」はない場合もあるが、現代語訳は変わらない。

②感動詞+形容詞の語幹 || 感動的に言い切る。

例 あなかしこ。 || ああ恐れ多い。

形容動詞

形容動詞の活用には、「ナリ活用」と「タリ活用」の二種類がある。

▼ナリ活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
静かなり	静か	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ

▼タリ活用

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
堂々たり	堂々	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ

*連用形の「なり」「たり」は直後に助動詞が続くときに用いられる。それ以外は「に」「と」が用いられる。

チエック問題

1 次の形容詞の活用の種類を答えよ。

- (1) めでたし
- (2) やんごとなし
- (3) きびし
- (4) ゆゆし

(4)	(3)	(2)	(1)
-----	-----	-----	-----

2 「けり」は連用形に接続する助動詞である。正しく活用しているのはどちらか、番号を答えよ。

- (1) うれしかりけり。
- (2) うれしくけり。

3 次のの中から形容動詞を抜き出せ。

- (1) 昔ありし家は稀なり。
- (2) いま静かに、御局にさぶらはん。
- (3) あららかに言ひて、きはまりなき放言しつ。

(3)	(2)	(1)
-----	-----	-----

4 次の()の中の形容動詞を正しく活用させよ。

- (1) (おろかなり) こと多し。
- (2) もの言ひこそ (おろかなり)。

(2)	(1)
-----	-----

チエック問題(16~17ページ) 解答

- 1 (1)ク活用 (2)ク活用 (3)シク活用 (4)シク活用
- 2 (1) (2)静かに (3)あららかに
- 3 (1)稀なり (2)静かに (3)あららかに
- 4 (1)おろかなる (2)おろかなれ

学 習 日
月 / 日

解答は左ページ

1 次の () の中の動詞を正しく活用させよ。

- ① 身の全く久しからむことをば(思ふ)ず。
- ② これを(見る)人涙を流さずといふことなし。
- ③ あるいは大家(滅ぶ)て小家となる。
- ④ 我(捨つ)て去りなば、ほとほと命も尽きぬべし。
- ⑤ 「いとやすし」と、(うなづく)をり。

⑤	③	①
	④	②

2 次の傍線部の動詞を終止形になおし (A)、活用の行と種類 (B)、文中での活用形 (C) を答えよ。

- ① 並み居る。
- ② 年ぞ暮るる。
- ③ 心得る人。

③	②	①
C	A	C
	B	B

3 次の傍線部の動詞の活用の種類 (A) と活用形 (B) を答えよ。

- ① 大将を犯す星なむ現じたる。
- ② この人を具して去にけり。
- ③ 月の都の人まうで来ば、捕へさせん。
- ④ あやしきひがごとどもにこそは侍らめ。
- ⑤ いとうつくしう、なまびまにおはす。

⑤	④	③	②	①
A	A	A	A	A
B	B	B	B	B

4 次の傍線部がナ変動詞であれば活用形を答え、そうでない場合は解答欄に×をつけよ。

- ① ののしり笑ひければ、逃げ去りにけり。
- ② この下の渡にて、舟うち返して死ぬ。
- ③ 夜更けぬ、とにやありけむ、やがて往にけり。

③	②	①

5 次の() ()の中の動詞を正しく活用させよ。ただし、ひらがなで答えること。

- ① 丹後より使ひは(来)ずや。
- ② 木のまたにすゑんと(す)けるなり。
- ③ 高き山の峰の、下り(来)べくもあらぬに置きて逃げて(来)ぬ。

③	②	①

6 次の() ()の中の形容詞を正しく活用させよ。

- ① 昔の人は、いささかのことをも、(いみじ)自贖したるなり。
- ② (ありがたし)もの、しうとにほめらるるむ。
- ③ いと(あやし)さまを人や見つらん。
- ④ 散ればこそいとと桜は(めでたし)。

④	③	②	①

7 次の各文中から形容詞・形容動詞を抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① 空^{そら}だきの香、こころにくくかをりて、まことに優なり。
- ② 憂^{うれ}へなきを楽しみとす。
- ③ 心おのづから静かなれば、無益^{むやく}のわざをなさず。
- ④ あけて出で入る所たてぬ人、いとにくし。

④	③	②	①	
A	A	A	A	A
B	B	B	B	B

※①の解答は順不同。

8 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① 咲く花の下に隠るる人を多みありしにまさる藤の陰^{かげ}かも
- ② 山ふかみ春ともしらぬ松の戸にたえだえかかる雪の玉水^{たまみづ}

②	①

7 助動詞入門

○助動詞のポイント

助動詞の勉強は、①意味 ②活用 ③接続を覚えるのがポイントである。

①意味
助動詞は動詞などに付いて何らかの意味を添えるもの。これを覚えていないと、古文に何が書いてあるかわからなくなる。

【例】花咲かむ。…「む」は推量の助動詞（〜ダロウ）だから、「花が咲くだろう」という意味。

②活用
助動詞も動詞などの用言と同じで活用する。これを覚えていないと、意味を知っていても問題文中で見抜けなくなる。

③接続
【例】花こそ咲かめ。…「め」は推量の助動詞「む」の已然形。「花が咲くだろう」で①の例文と同じ意味である。

すべての助動詞は、上にくる語の活用形が決まっている。これを接続といい、覚えていないと用言・助動詞の完璧マスターが困難になる。たとえば、「未然形接続」とは、上にくる語が必ず未然形になるという意味である。

【例】花見をすなり。…「す」はサ変動詞の終止形。終止形に付くのは伝聞推定の助動詞「なり」。

【例】花見をするなり。…「する」はサ変の連体形。連体形に付くのは断定の助動詞「なり」。

▼助動詞の接続

未然形	連用形		終止形		連体形・体言	サ変の未然形・四段の已然形
	る	らる	しむ	む		
る	らる	しむ	む	す	さす	
まし	む	む	む	む	む	
き	けり	つ	まほし	ぬ	ぬ	
たり	たり	けむ	らし	べし	べし	
まじ	めり	らし				
なり	なり					
なり	なり					
たり	たり					
り	り					

※1-1…完了の「たり」 ※1-2…断定の「なり」

※2…ラ変型には連体形接続。

ラ変型とは活用の基本パターンを「ら／り／る／れ／れ」とするもの。たとえば形容詞の補助活用（左側）は「から／かり／〇／かる／〇／かれ」と活用するのでラ変型である。

※3-1…伝聞推定の「なり」 ※3-2…断定の「なり」

※4…「り」の接続は四段の「已然形」ではなく、「命令形」だという説もある。四段活用の已然形と命令形は形が同じなので、どちらで覚えておいてもさしつかえない。

チエック問題

1 未然形接続の助動詞を十一個答えよ。

2 連用形接続の助動詞を七個答えよ。

3 終止形接続の助動詞を六個答えよ。

4 終止形接続の助動詞は、ラ変型には何形に付くか答えよ。

--

5 断定の助動詞「なり」の接続を答えよ。

--

6 完了の助動詞「り」の接続を答えよ。

--

チエック問題(22〜23ページ)解答

1 る／らる／す／さす／しむ／ず／む／むず／まし／じ／まほし 2 き／けり／つ／ぬ／たり／たし／けむ 3 らむ／めり／らし／べし／まし／なり (伝聞推定) 4 連体形 5 連体形／体言 6 サ変の未然形／四段の已然形 (すべて順不同)

学習日
月 日

解答は左ページ

サ変の未然形 四段の已然形	連体形 助詞「が」「の」	体言	連体形 体言	終止形 (ラ変型には 連体形接続)								接続		
				なり	まじ	べし	らし	めり	らむ	けむ	たし	基本形	未然形	
り	「ごとく」	たり	なり	なり	まじ	べし	らし	めり	らむ	けむ	たし	り	ら	
り	「ごとく」	と たり	に なり	なり	まじかり	まじく	べかり	べく	めり	〇	たかり	たく	り	ら
り	「ごとく」	たり	なり	なり	〇	まじ	〇	べし	らし	めり	らむ	けむ	〇	たし
る	「ごとく」	たる	なる	なる	まじかる	まじき	べかる	べき	らし	める	らむ	けむ	たかる	たき
れ	〇	たれ	なれ	なれ	〇	まじけれ	〇	べけれ	らし	めれ	らめ	けめ	〇	たけれ
れ	〇	たれ	なれ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
ラ変型	形容詞型	形容動詞型	形容動詞型	ラ変型	形容詞型	形容詞型	無変化型	ラ変型	四段型	四段型	形容詞型			
完了・存続	比況	断定	断定・存在	伝聞・推定	打消推量・打消意志・不可能・打消当然・禁止・不適當	推量・意志・可能・当然・命令・適當	推定	推定・婉曲	推定	現在推量・現在の原因推量・現在の伝聞・現在の婉曲	過去推量・過去の原因推量・過去の伝聞・過去の婉曲	希望		
28	50	48		42		50	40		46					

連用形	未然形														接続										
	たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す		らる	る	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	完了・存続	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	完了・強意	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	伝聞過去・詠嘆	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	希望	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	打消推量・打消意志	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	反実仮想・ためらいの意志・推量	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	推量・意志・勧誘(適當)・仮定・婉曲	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	打消	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	使役・尊敬	
たり	ぬ	つ	けり	き	まほし	じ	まし	むず	む	ず	しむ	さす	す	らる	る	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	自発・可能・受身・尊敬	
28	26		46	38	46	38		34		32															本冊頁

◆助動詞一覽

これから勉強する助動詞をあつめて一覽にしたものです。今すぐこれを見る必要はありません。すべて勉強してから整理用に使ってください。

8 助動詞 き・けり

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
き	せ	○	き	し	しか	○	連用形
けり	けら	○	けり	ける	けれ	○	連用形

*「き」は、カ変・サ変には未然形に接続することもある。

○意味と用法

体験過去（直接経験の過去） 〈タ〉

↓自分が直接体験したことを過去として述べる。

けり

○意味と用法

①伝聞過去（間接経験の過去） 〈タ・タソウダ〉
↓人から伝聞したことを過去として述べる。

②詠嘆 〈ダナア・ソトダ〉
↓はじめて気付いたことに感動する。

↑ここがポイント

①「き」は形がころころ変わるので長文に出たとき見逃さないように、活用をしっかりと覚えておこう。

②「き」の未然形「せ」は、「Aせば、Bまし」の形でのみ使われる。「Aせば、Bまし」は〈モシAダッタナラ、Bダッタダロウニ〉と訳す反実仮定の構文（詳しくは46ページ参照）。

③詠嘆の「けり」は主に和歌や会話文中で用いられた。

④詠嘆の「けり」は「気付き」と呼ぶこともある。和歌や会話文中、また「なりけり」の形であらわれることも多い。

チェック問題

1 助動詞「き」の意味を答えよ。

2 助動詞「けり」の意味を二つ答えよ。

3 助動詞「き」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
き						

4 助動詞「けり」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
けり						

5 過去の助動詞「き」「けり」の接続を答えよ。

6 詠嘆の助動詞「けり」の訳し方を答えよ。

7 助動詞「けり」が、伝聞過去ではなく、詠嘆になるのはどんな場合か。

学習日
月 日

解答は左ページ

チェック問題 26～27ページ 解答

- 1 体験過去（直接経験の過去）
- 2 伝聞過去（間接経験の過去）／詠嘆（韻不同）
- 3 せ／○／き／し／しか／○
- 4 けら／○／けり／ける／けれ／○
- 5 連用形
- 6 だなあ・なあ・ことだ・ことよ・よ・ねえ
- 7 和歌中・会話文中・「なりけり」の「けり」

9 助動詞 つ・ぬ・たり・り

学習日 月 日

つ・ぬ

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	連用形
つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ	連用形

○意味と用法

- ①完了 (へ〜タ・〜テシマッタ)
- ②強意 (キツト〜)

↓下に推量の助動詞がきたら強意。次の16パターンを覚えておく。
てむ・なむ・つべし・ぬべし・つらむ・ぬらむ・てまし・なまし・てけむ・にけむ・つめり・ぬめり・つらし・ぬらし・てむず・なむず

↑ここがポイント!

完了の「つ」「ぬ」は文法問題が頻出。次の形は覚えておいて、「完了」と即答できるようにしよう。

- てき・てけり (「て」は「つ」の連用形)
- にき・にけり・にたり (「に」は「ぬ」の連用形)

たり・り

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
り	ら	り	り	る	れ	れ	※
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	連用形

※「り」の接続は、サ変の未然形・四段の已然形。

○意味と用法

- ①完了 (へ〜タ・〜テシマッタ)
 - ②存続 (へ〜テイル・〜テアル)
- ↓へ〜テイル・〜テアルと訳せたら存続。無理ならば完了。

↑ここがポイント!

完了の「り」は他の語との識別問題が頻出 (詳しくは82ページ参照)。e段音に付いたら「完了」と覚えておこう。

例 咲け(e)らば 咲け(e)り 咲け(e)る花 咲け(e)れど

チエック問題

解答は左ページ

1 助動詞「つ」「ぬ」の意味を二つ答えよ。

2 助動詞「つ」「ぬ」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ぬ						
つ						

3 助動詞「つ」「ぬ」の接続を答えよ。

4 完了の助動詞「つ」「ぬ」が強意になるのはどんな場合か答えよ。

5 助動詞「たり」「り」の意味を二つ答えよ。

6 助動詞「たり」「り」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
り						
たり						

7 助動詞「たり」の接続を答えよ。

8 助動詞「り」の接続を二つ答えよ。

チエック問題(28〜29ページ)解答

1 完了/強意 (順不同) ☆「つ」「ぬ」には並列 (へ〜タリ〜タリ) の意味もある。例 行きつ戻りつ 浮きぬ沈みぬ 2 「つ」てて/つつる/つれ/てよ 「ぬ」な/に/ぬぬる/ぬれ/ぬ 3 連用形 ☆「つ」は意志的動作に付き、「ぬ」は自然発生的動作に付くという傾向がある。例 歌詠みつ。雨降りぬ。 4 下に推量の助動詞がきたとき。 5 完了/存続 (順不同) 6 「たり」たら/たり/たり/たる/たれ/たれ 「り」ら/り/り/る/れ/れ 7 連用形 8 サ変の未然形/四段の已然形 (順不同)

練習問題

(助動詞 き・けり・つ・ぬ・たり・り)

解答は別冊10ページ

学習日

月 日

- 1 次の各文中から、過去の助動詞をそのままの形で抜き出し (A)、その活用形を答えよ (B)。
- ① にはかに都遷り侍りき。
 - ② 昔もひとたびふたたび通ひし道なり。
 - ③ 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

③	②	①
A	A	A
B	B	B

- 2 次の傍線部の「けり」のうち、詠嘆でないものを選び記号を答えよ。

- ① 「犬なども、かかる心あるものなりけり」と笑はせ給ふ。
- ② 人もなき空しき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり
- ③ 式部卿宮、明けん年ぞ五十になり給ひける。
- ④ ふるさととなりにし平城の都にも色はかはらず花は咲きけり

--

- 3 次の各文中から、完了の助動詞をそのままの形で抜き出せ。
- ① この男、垣間見てけり。
 - ② 雀の子を犬君が逃がしつる。
 - ③ 花もみな咲きぬれど、音もせず。
 - ④ 河内へも行かずなりにけり。

④	③	②	①

- 4 次の傍線部を現代語訳せよ。
- ① 雨降りぬ。
 - ② 風も吹きぬべし。

②	①

- 5 次の傍線部の助動詞の意味が強意のものを二つ選び、その記号を答えよ (順不同)。

- ① なにの身にこのたびはなりぬらむ。
- ② 当代まで六十八代にぞならせ給ひにける。
- ③ 天気のこと、楯取の心にまかせつ。
- ④ かくしつ世は尽きぬべきにや。

--

- 6 次の各文中から助動詞「たり」「り」をそのままの形で抜き出し (A)、その活用形を答えよ (B)。

- ① 楯取は舟歌うたひて、何とも思へらず。
- ② うつくしきもの。瓜にかきたる稚児の顔。
- ③ 兼行が書ける扉、あざやかに見ゆるぞあはれなる。
- ④ 我死なむ後に、たちまちに葬することなくして、九日置きたれ。

④	③	②	①
A	A	A	A
B	B	B	B

- 7 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① その沢に、かきつばた、いとおもしろく咲きたり。
- ② 遊女三人、いづくよりともなく出で来たり。
- ③ その辺りに、照り輝く木ども立てり。

③	②	①

練習問題

助動詞 き・けり・つ・ぬ・たり・り

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	未然形
らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	未然形

*可能と自発の意味になる場合には命令形はない。

*「る」…四段・ナ変・ラ変動詞の未然形(a段音)に接続。

「らる」…右以外の動詞の未然形に接続。

○意味と用法

①自発(自然トサレル・トセズニハイラレナイ)

心情動詞・知覚動詞 + する・らる

*心情動詞(「思ふ」・「嘆く」など)・知覚動詞(「知る」・「見る」など)に付くことが多い。

例 我ながら、いたう悲しと嘆かる。

例 自分でも、たいそう悲しいと嘆かずにはいられない。

②可能(トコトガデキル)

る・らる + 打消

*下に打消語を伴うのが原則。

例 夜一夜、寝られず。 例 一晩中、眠ることができない。

*鎌倉時代以降は打消語を伴わなくても、可能の意味になることがある。
例 冬はいかなる所にも住まる。 例 冬はどんな所にも住むことができる。

③受身(トサレル)

くに…する・らる

例 「はやう往ね」など、人々に言はる。

例 「はやく行け」などと、人々に言われる。

*上に「くに」がある。なくても現代語訳の際に補える。

④尊敬(トナサル・トニナル)

(主語が)貴人…する・らる

例 大師は朱雀門と書かれ、帝は陽明門と書かる。

例 弘法大師は朱雀門とお書きになり、天皇は陽明門とお書きになる。

*主語が「貴人」か、「敬いたい人」。

↑ここがポイント!

- ①心情動詞・知覚動詞…心情動詞は「思ふ」「嘆く」など。知覚動詞は「知る」「見る」など。
- ②可能の形…打消の語を伴うのが原則なので、「れず・られず」「れじ・られじ」「れで・られで」の形をとることが多い。
- ③仰せらる…「仰せらる」の「らる」は必ず尊敬になる。
- ④「れ給ふ」「られ給ふ」…「れ給ふ」「られ給ふ」の「れ」「られ」は絶対に尊敬にはならない。ほとんどが受身か自発。

チエック問題

1 助動詞「る」「らる」の意味を四つ答えよ。

2 助動詞「る」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
る						

3 助動詞「らる」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
らる						

4 助動詞(1)「る」の接続と、(2)「らる」の接続を答えよ。

(1) _____

(2) _____

5 自発の助動詞「る」「らる」はどのような動詞に付く傾向があるか二つ答えよ。

6 「れ給ふ」「られ給ふ」の「れ」「られ」の意味として適当でないものはどれか、A～Dの中から選べ。

- A 自発 B 可能 C 受身 D 尊敬

チエック問題(32～33ページ)解答

- 1 自発/可能/受身/尊敬(順不同) 2 れ/れ/る/るる/るれ/れよ
- 3 られ/られ/らる/らるる/らるれ/られよ 4 (1)四段・ナ変・ラ変動詞の未然形 (2)四段・ナ変・ラ変以外の動詞の未然形 5 心情動詞/知覚動詞(順不同) 6 D

11 助動詞 す・さす・しむ・ず

学習日
月
日

解答は左ページ

す・さす・しむ

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	
さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	未然形
しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	未然形

*「す」…四段・ナ変・ラ変動詞の未然形（a段音）に接続。
*「さす」…右以外の動詞の未然形に接続。

*「しむ」…未然形に接続。漢文調の文章でよく用いられた。

○意味と用法

①使役（へ～サセル）

②尊敬（へ～ナサル・オ～ニナル）

*下に尊敬語（「給ふ」「おはす」「おはします」など）がないときは使役。あるときは尊敬か使役で、文脈判断が必要。

↑ここがポイント！

①二重尊敬…尊敬「す・さす・しむ」の下に「給ふ」の付いた「せ給ふ」「させ給ふ」「しめ給ふ」は、二重尊敬の典型的な形。地の文で

は、天皇・皇族など、きわめて身分が高い人に用いられた。訳し方は、普通の尊敬と同じ（へ～ナサル・オ～ニナル）。

【例】帝、文など書かせ給ふ。 詠天皇は、手紙などお書きになる。

②見かけだけの二重尊敬…いくら二重尊敬の形をとっていても、「（誰々）に」が「せ給ふ・させ給ふ・しめ給ふ」の上にあると使役。【例】帝、人々に歌詠ませ給ふ。 詠天皇は人々に歌を詠ませなされる。

ず

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
ず	○	ず	ず	ぬ	ね	○	
	ずらひ	ずり	○	ぬる	ねれ	ずれ	未然形

○意味と用法

打消（へ～ナイ）

↑ここがポイント！

*活用表の左側、「ずらひ／ずり／○／ぬる／ねれ／ずれ」の系列を補助活用（右側は本活用）といい、下に助動詞が付くときに使う。

*問題を解くときによく使うので、活用をしっかり覚えておくこと。

チェック問題

1 助動詞「す」「さす」「しむ」の意味を二つ答えよ。

2 助動詞「す」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
す						

3 助動詞「さす」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
さす						

4 助動詞(1)「す」の接続と、(2)「さす」の接続を答えよ。

(1)

(2)

5 助動詞「す」「さす」「しむ」について二重尊敬の典型的な形を三つ答えよ。

6 助動詞「ず」の意味を答えよ。

7 助動詞「ず」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						

8 助動詞「ず」に他の助動詞が接続する場合、本活用と補助活用のどちらに付くか答えよ。

チェック問題(34～35ページ)解答

1 使役／尊敬（順不同） 2 せ／せ／す／する／すれ／せよ 3 させ／させ／さす／さする／さすれ／させよ 4 (1)四段・ナ変・ラ変動詞の未然形 (2)四段・ナ変・ラ変以外の動詞の未然形 5 せ給ふ／させ給ふ／しめ給ふ（順不同） 6 打消 7 ○・せらひ／ず・ずり／ず・○／ぬ・ぬる／ね・ねれ／○・ずれ 8 補助活用

1 次の空欄に助動詞「る」「らる」のどちらか適当な方を入れよ
(終止形のままでよい)。

- ① 人に疑は 。
- ② 人に害せ 。
- ③ 人に命ぜ 。

①
②
③

2 次の傍線部の助動詞「る」「らる」の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 盗人なりければ、国の守にからめられにけり。
- ② 大將いとま申して、福原へこそ帰られけれ。
- ③ 湯水ものどへ入れられず。
- ④ 今日は都のみぞ思ひやらるる。

④	③	②	①
A	A	A	A
B	B	B	B

4 次の空欄に助動詞「す」「さす」のどちらか適当な方を入れよ
(終止形のままでよい)。

- ① 妻の媪に預けて養は 。
- ② 贈り物、御覧ぜ 。

①
②

5 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 下部に酒飲ますることは心すべきことなり。
- ② 関白殿、黒戸より出でさせ給ふ。
- ③ 隨身にうたはせ給ふ。
- ④ おほやけも行幸せしめ給ふ。

③	①
④	②

3 次の各文中から助動詞「る」「らる」をそのままの形で抜き出し(A)、その意味を答えよ(B)。

- ① 西の宮の左大臣流され給ふ。
(蜻蛉日記)
- ② あるやむごとなき人仰せられき。
(徒然草)
- ③ 家の造りやうは夏を旨とすべし。冬はいかなる所にも住まる。
(徒然草)
- ④ いかにか結びおきける前の世のちぎりにかと、もののみ思ひつづけられて、あはれ、しのびがたきこちす。
(讃岐典侍日記)
- ⑤ おぼつかなきもの。ものもまだ言はぬ乳児の、反りくつがへり人にも抱かれず泣きたる。
(枕草子)

⑤	④	③	②	①
A	A	A	A	A
B	B	B	B	B

6 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 持たせたる旗、あげさせよ。
- ② 君も臣も、大きに騒がせおはします。
- ③ 帝おりさせ給ひぬれば、東官位につかせ給ひぬ。
- ④ 内(天皇)にも、このかたに心得たる人々に弾かせ給ふ。

③	①
④	②

7 次の各文中の打消の助動詞をそのままの形で抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① げにただ人にはあらざりけり。
- ② 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。
- ③ 風の吹くことやまねば、岸の波立ちかへる。

③	②	①
A	A	A
B	B	B

※②の解答は順不同。

12 助動詞 む・むず・じ

む・むず

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
む	○	○	む	む	め	○	未然形
むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○	未然形

*「む」は「ん」と書かれることもある。

○意味と用法

- ① 推量 (へダロウ)
- ② 意志 (へシヨウ)
- ③ 勧誘 (適當) (へガヨイ)
- ④ 仮定 (モシナラ、ソノソレ)
- ⑤ 婉曲 (へヨウナ)

*①から③までは文末用法(—む。)が原則。

*④、⑤は連体形の文中用法(—む—。)が原則。

*婉曲は(へヨウナ)と訳してもよいし、訳さないで省いてもよい。

↑ここがポイント!

- ① 文末用法：主語が一人称なら意志。主語が二人称なら勧誘(適當)。主語が三人称なら推量になるのが原則。
- 例我、行かむ。 ↓意志 颯私が行こう。

じ

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
じ	○	○	じ	じ	じ	○	未然形

○意味と用法

- ① 打消推量 (へナイダロウ・マイ)
 - ② 打消意志 (へナイツモリダ・マイ)
- *主語が一人称なら②。それ以外なら①。

↑ここがポイント!

*「じ」は「む」の意味の打消である。

- 例汝、行かむ。 ↓勧誘 (適當) 颯あなたは行くのがよい。
- 例彼、行かむ。 ↓推量 颯あの人に行くだろう。
- ② 文中用法：文中の「む」は仮定・婉曲のどちらにしてもよい。直下に名詞がくれば婉曲、直下に助詞がくれば仮定にすると訳しやすい。
- 例咲かむ花を見る。 ↓婉曲 颯咲く花を見る。
- ↓仮定 颯もし花が咲いたなら、その花を見る。
- ③ 類出の形「こそ—め」の「め」は勧誘(適當)で出題されることが多い。
- ④ 「むず」「む」の意味とほぼ同じ。入試問題で問われることは少ない。

チェック問題

1 助動詞「む」の意味を四つ答えよ。

2 助動詞「む」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
む						

3 助動詞「む」の接続を答えよ。

4 助動詞「む」が仮定・婉曲の意味になるのは、どんなときか答えよ。

5 「こそ—め」の「め」が入試で出題された場合、まず最初に考えないといけない意味はどれか、ア〜オから選べ。

- ア 推量 イ 意志 ウ 勧誘 エ 仮定 オ 婉曲

6 助動詞「むず」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
むず						

7 助動詞「じ」の意味を二つ答えよ。

チェック問題(38〜39ページ)解答

- 1 推量/意志/勧誘(適當)/仮定/婉曲(以上の中から四つ、順不同)
- 2 ○/○/む/むめ/○
- 3 未然形
- 4 文中に連体形で使われたとき。
- 5
- 6 ○/○/○/むず/むずる/むずれ/○
- 7 打消推量/打消意志(順不同)

学習日
月 / 日

解答は左ページ

13 助動詞 らむ・けむ

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
らむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	終止形
けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	連用形

*「らむ」は、ラ変型には連体形に接続。

*「らむ」は「らん」、「けむ」は「けん」と書かれることもある。

○意味と用法

○意味と用法

- ① 現在推量 (〜イルダロウ)
 - ② 現在の原因推量 (ドウシテ〜イルノダロウ)
 - ③ 現在の伝聞・婉曲 (〜イルトカイウ・〜イルヨウナ)
- *①・②は文末用法 (〜らむ) が原則。
*③は連体形の文中用法 (〜らむ〜) が原則。

↑ここがポイント!

現在の原因推量:「らむ」の上に「どうして」と訳す語があるか、訳すときに「どうして」を補える場合が原則。現在推量に含めて考えられ

ることが多く、入試問題で判別させることはきわめて少ない。

例など時鳥声絶えぬらむ。

訳:どうしてほととぎすの声がしなくなってしまうているのだろう。

けむ

○意味と用法

- ① 過去推量 (〜タダロウ)
 - ② 過去の原因推量 (ドウシテ〜タノダロウ)
 - ③ 過去の伝聞・婉曲 (〜タトカイウ・〜タヨウナ)
- *「けむ」の用法は「らむ」とほぼ同じである。
*①・②は文末用法 (〜けむ) が原則。
*③は連体形の文中用法 (〜けむ〜) が原則。

↑ここがポイント!

過去の原因推量:「けむ」の上に「どうして」と訳す語があるか、訳すときに「どうして」を補える場合が原則。過去推量に含めて考えられることが多く、入試問題で判別させることはきわめて少ない。

例:夕方は秋となに思ひけむ。

訳:夕方は秋に限るとどうして思っていたのだろう。

チェック問題

解答は左ページ

学習日
月
日

1 助動詞「らむ」の意味を三つ答えよ。

2 助動詞「らむ」の接続を答えよ。

3 助動詞「らむ」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
らむ						

4 助動詞「けむ」の意味を三つ答えよ。

5 助動詞「けむ」の接続を答えよ。

6 助動詞「けむ」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
けむ						

7 次の動詞の活用を、接続する助動詞に注意してなおせ。

- (1) (咲く) らむ
- (2) (咲く) けむ
- (3) (咲く) む
- (4) (す) らむ
- (5) (す) けむ
- (6) (す) む

(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

チェック問題(40〜41ページ)解答

- 1 現在推量/現在の原因推量/現在の伝聞・婉曲(順不同)
- 2 終止形(ラ変型には連体形)
- 3 ○/○/らむ/らむ/らめ/○
- 4 過去推量/過去の原因推量/過去の伝聞・婉曲(順不同)
- 5 連用形
- 6 ○/○/けむ/けむ/けめ/○
- 7 (1) 咲く (2) 咲き (3) 咲か (4) す (5) し (6) せ

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
べし	べから	べかり	べし	べき	べけれ	べし	終止形
まじ	まじから	まじかり	まじ	まじき	まじけれ	まじ	終止形

*ラ変型には連体形に接続。

べし

○意味と用法

- ① 推量 (へダロウ)
- ② 意志 (へシヨウ)
- ③ 可能 (へデキル)
- ④ 当然 (へハズダ・へベキダ)
- ⑤ 命令 (へセヨ)
- ⑥ 適当 (へガヨイ)

*主語が一人称なら「意志」。主語が二人称なら「命令」。それ以外は文脈判断。

↑ここがポイント

①「べし」の意味…「べし」の意味は「当然」が基本。一つの意味に決められないことも多いから、訳が通れば何でもいとおく考える。
 ②可能の「べし」…打消文中に多い。「べし」が打消文中に使われていたら、まず「可能」で訳してみよう。おかしければ、他の意味を考える。

まじ

○意味と用法

- ① 打消推量 (へナイダロウ・マイ)
- ② 打消意志 (へナイツモリダ・マイ)
- ③ 不可能 (へデキナイ)
- ④ 打消当然 (へハズガナイ・ベキデナイ)
- ⑤ 禁止 (へスルナ)
- ⑥ 不適當 (へナイノガヨイ)

↑ここがポイント

*「まじ」は「べし」の意味の打消である。

チェック問題

1 助動詞「べし」の意味を六つ答えよ。

--	--	--	--	--	--

2 助動詞「べし」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
べし						

3 助動詞「べし」の接続を答えよ。

--	--

4 助動詞「まじ」はどの助動詞の打消か、答えよ。

--	--

5 助動詞「まじ」の意味を二つ答えよ。

--	--

6 助動詞「まじ」の意味が打消推量の場合、どのように訳せばよいか、答えよ。

--	--

7 助動詞「まじ」の意味が打消意志の場合、どのように訳せばよいか、答えよ。

--	--

8 助動詞「まじ」の接続を答えよ。

チェック問題(42～43ページ)解答

1 推量/意志/可能/当然/命令/適当(順不同) 2 ○・べから/べく・べかり/べし・○/べき・べかる/べけれ・○/○・○ 3 終止形(ラ変型には連体形) 4 べし 5 打消推量・打消意志・不可能・打消当然・禁止・不適當(以上の中から二つ、順不同) 6 ないだろう・まい 7 ないつもりだ・まい 8 終止形(ラ変型には連体形)

4

練習問題

(助動詞

む・むず・じ・らむ・けむ・べし・まじ)

解答は別冊24ページ

学 習 日
月 / 日

1 次の傍線部「む」の意味を答えよ。

- ① 我行かむ。
- ② 汝行かむ。
- ③ 花咲かむ。
- ④ 花咲かむ時。

③	①
④	②

2 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 「この障子口に、まろは寝たらむ。」
- ② 「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ。」
- ③ 「なかくは急ぎ給ふ。花を見てこそ帰り給はめ。」

③	①
②	

3 次の傍線部の助動詞の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 思はむ子を法師になしたらむこそ、心苦しけれ。
- ② 「我こそ死なぬ」とて、泣きののしること、いと耐へがたげなり。

6 次の空欄に動詞「思ふ」を正しい形にして入れよ。

- ① 人を らむ。
- ② 人を けむ。

①
②

7 次の傍線部を「らむ」の用法に注意して現代語訳せよ。

- ① 奥山に花咲くらむ。
- ② 唐土に咲くらむ花。

②	①
---	---

8 次の傍線部「けむ」の意味を答えよ。

- ① 前の世の罪なりけむ。
- ② 古にありけむ鳥も、今はなし。

②	①
---	---

③ 年五十になるまで上手に至らざらん芸をば捨つべきなり。

③	②	①
A	A	A
B	B	B

4 次の傍線部を、例にならって品詞分解せよ。

死なんずるは、思ひまうけたれば、命は惜しくもあらず。

例 名詞 雨 — 助動詞 の — 動詞 降り — 助動詞 ける — 名詞 こと

死
な
ん
ず
る
は

5 次の各文を現代語訳せよ。

- ① 雨降らし。
- ② 我行かじ。

②	①
---	---

9 次の傍線部の「らむ」のうち、現在推量の助動詞であるものはどれか答えよ。

- ① 文を置きてまからむ。
- ② わが背子はいづく行くくらむ。
- ③ あはれ知れらむ人。

--

10 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 我かならず万歳をうたふべし。
- ② これは汝が誓と思ふべからず、主の誓と思ふべし。
- ③ 今日日暮れぬ。勝負を決すべからず。

①
②
③

11 次の傍線部の助動詞の意味を、ア～オから選んで答えよ。

- ① 唐の物は、葉のほかは、なくとも事欠くまじ。
- ② 妻といふものこそ、男の持つまじきものなれ。

- ア 打消推量
- イ 禁止
- ウ 不可能
- エ 打消当然
- オ 打消意志

①
②

チエック問題

解答は左ページ

まし

○活用と接続

まし	まし	まし	まし	まし	まし	まし	まし
基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続

○意味と用法

①反実仮想 (モシAダッタナラバ、Bダッタダロウニ)

ませ
A ましかば、B まし。
せ

【例】友あらましかば、うれしからまし。

②ためらいの意志 (シヨウカシラ)

疑問語「いかに」「なに」「や」「か」など

【例】何を言おうかしら。

まし。

③推量 (ダロウ) ①・②以外

↑ここがポイント!

①「Aせば、Bまし」の「せ」は過去の助動詞「き」の未然形である。

②反実仮想には「未然形+ば+まし」という形もある。

【例】雨降らば、花も散らまし。

【訳】もし雨が降っていたならば、花も散っていただろうに。

まほし・たし

○活用と接続

まほし	まほし	まほし	まほし	まほし	まほし	まほし	まほし
基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
たし	たし	たし	たし	たし	たし	たし	たし

○意味と用法

希望 (〜たい・〜テホシイ)

↑ここがポイント!

「たし」は「まほし」の俗語的表現で、意味はまったく同じ。鎌倉時代以後、盛んに使われるようになった。

①助動詞「まし」の「推量」以外の意味を二つ答えよ。

意味 訳し方

②助動詞「まし」の活用表を完成させよ。

まし	まし	まし	まし	まし	まし	まし
基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

③助動詞「まし」の接続を答えよ。

意味 訳し方

④反実仮想の代表的な形を三つ答えよ。

(1) A	(2) A	(3) A
ば、B	ば、B	ば、B

⑤助動詞「まほし」の意味と訳し方を記せ。

意味 訳し方

⑥助動詞「まほし」の接続を答えよ。

意味 訳し方

⑦助動詞「たし」の意味と訳し方を記せ。

意味 訳し方

⑧助動詞「たし」の接続を答えよ。

意味 訳し方

チエック問題(46〜47ページ)解答

- ①反実仮想/ためらいの意志(順不同) ②ませ・ましか/〇/まし/まし
- ③未然形 ④(1)ませ/まし (2)ましか/まし (3)せ/まし
- ⑤希望/〜たい・〜てほしい ⑥未然形 ⑦希望/〜たい・〜てほしい
- ⑧連用形

なり(断定)

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
なり	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ	体言 連体形

○意味と用法

①断定(〜デアル)

②存在(〜ニアル・〜ニイル)

*「存在」は場所や方向をあらわす名詞に付くのが原則。

例 春日なる三笠の山

例 春日にある三笠の山

↑「こ」がポイント!

①断定の連用形「に」に「あり」の形をとるのが原則。

例 何事にかあらむ。 何事であろうか。

②断定の助動詞には「たり」もある。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	体言

「臣たる者(家来である者)」のように、必ず体言に付くから、完了の助動詞とまぎれることはない。

なり(伝聞推定)

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
なり	○	なり	なり	なる	なれ	○	終止形

*伝聞推定の「なり」はラ変型には連体形に接続。

○意味と用法

①伝聞(〜ソウダ・〜トカイウ)

②推定(〜ヨウダ)

*文中で音を聞いているようなら「推定」(衣擦れの音↓人が来たヨウダ)。それ以外は「伝聞」が原則。

↑「こ」がポイント!

伝聞推定・上の語の音変化:伝聞推定の上に、「ーる」(ラ変型活用語の連体形)がくると、撥音便無表記になることが多い。

例 あるなり ↓あん(撥音便)なり ↓あ(無表記)なり

チエック問題

解答は左ページ

1 断定の助動詞「なり」のもう一つの意味を答えよ。

□

2 終止形に付く助動詞「なり」の意味を二つ答えよ。

□

3 (1)断定の助動詞「なり」と(2)伝聞推定の助動詞「なり」の活用表を完成させよ。

(1)断定

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり						

(2)伝聞推定

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり						

4 (1)断定の助動詞「なり」と(2)伝聞推定の助動詞「なり」の接続をそれぞれ答えよ。

(1)断定

□

(2)伝聞推定

5 「あなり」の音変化の過程を答えよ。

(1) □ ↓ (2) □ ↓ あなり

6 「あなり」の「あ」を文法的に説明せよ。

ラ変動詞「あり」の連体形の □

チエック問題(48〜49ページ)解答

- 1 存在
- 2 伝聞/推定(順不同)
- 3 (1)なら/なり・に/なり/なる/なれ/なれ (2)○/なり/なり/なる/なれ/○
- 4 (1)連体形・体言(順不同)
- (2)終止形(ラ変型には連体形)
- 5 (1)あるなり (2)あんなり
- 6 撥音便無表記

めり・らし

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
めり	○	めり	めり	める	めれ	○	終止形
らし	○	らし	らし	らし	らし	○	終止形

*「めり」も「らし」もラ変型には連体形に接続。

○意味と用法

めり 推定（〜ヨウダ）・婉曲（〜ヨウダ）

*推定と婉曲とは無理に区別しなくてもよい。

らし 推定（〜ラシイ）

↑ここがポイント!

①「めり」は「見あり」が語源といわれ、視覚による推定をあらわす。

②「めり」の上の語の音変化「めり」の上に、「ーる」（ラ変型活用語の連体形）がくると、撥音便無表記になることが多い。

例あるめり ↓あん(撥音便)めり ↓あ(無表記)めり

③「らし」は根拠のある推定といわれ、和歌で用いるのが原則。

チェック問題

解答は左ページ

1 助動詞「めり」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
めり						

2 助動詞「めり」の意味を二つ答えよ。

3 助動詞「めり」の接続を答えよ。

4 助動詞「らし」の活用表を完成させよ。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
らし						

5 助動詞「らし」の意味を答えよ。

6 助動詞「らし」の接続を答えよ。

7 助動詞「ことし」の意味を答えよ。

8 助動詞「ことし」の訳し方を答えよ。

「らし」

○活用と接続

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
らし	○	らし	らし	らし	○	○	連体形 助動詞「が」の「し」

○意味と用法

比況（〜ヨウダ）

*比況とは、あるものを他のものにとえること。「光陰、矢のごとし」といえば、「光陰（時間）」を「矢」にとえている。

チェック問題(50〜51ページ)解答

- 1 ○／めり／めり／める／めれ／○
- 2 (視覚による) 推定／婉曲 (順不同)
- 3 終止形 (ラ変型には連体形)
- 4 ○／○／らし／らし／らし／○
- 5 (根拠のある) 推定
- 6 終止形 (ラ変型には連体形)
- 7 比況
- 8 しょう

5

練習問題

(助動詞

まし・まほし・たし・なり・めり・らし・じとじ)

解答は別冊32ページ

学習日
月
日

1 次の空欄に正しい語を入れよ。

- ① 鏡に色・形あら ば、映らざらまし。
- ② 世の中にたえて桜のなかり ば春の心はのどけからまし

①
②

2 次の傍線部を、助動詞の用法に注意して現代語訳せよ。

- ① いつはりのなき世なりせばいかばかり人の言の葉うれしからまし *「人」：「あなた」と訳す。
- ② これに何を書かまし。
- ③ おのが行かまほしき所へ往ぬ。

③	②	①

3 次の傍線部の助動詞「なり」の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

①
②

- 6 次の傍線部の助動詞「なり」が、断定・存在の意味をもつものならA、伝聞推定の意味をもつものならBと答えよ。
- ① 男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり。
 - ② 妻戸を、やはら、かい放つ音すなり。
 - ③ 信濃にあんなる木曾路川。
 - ④ 神代より世にあることを記しおきけるなり。

①
②
③
④

7 次の各文中から断定の助動詞を抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① 世には、心得ぬことの多きなり。
- ② おのが身はこの国の人にもあらず。
- ③ まだ、いと下臈に侍りし時、あはれと思ふ人侍りき。

③	②	①
A	A	A
B	B	B

- ① 秋の月は限りなくめでたきものなり。
- ② 駿河なる富士の高嶺

②	①
A	A
B	B

4 次の傍線部の助動詞「なり」の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 楯の音ぞほのかにすなる。
- ② また聞けば、侍従の大納言の御女なくなり給ひぬなり。

②	①
A	A
B	B

5 次の傍線部を「なり」の意味に注意して現代語訳せよ。

- ① 家なる妹。
- ② たたみをそよそよと踏みて、人來なり。

8 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① 山陰の暗がりたる所を見れば、螢はおどろくまで照らすめり。
- ② 大道、直きこと、髪のごとし。

②	①

9 次の和歌を読み、説明文の空欄をうめよ。

夕されば衣手寒しみよしの吉野の山にみ雪降るらし
 「夕されば」は ① という意味。「衣手」は「袖」という意味である。
 「みよしの吉野の山」は単に「吉野山」と訳し、「み雪」も「雪」と訳せばよい。この和歌の意味は「① 袖が寒い。吉野山に雪が ②」ということになる。

助動詞「らし」の意味は根拠のある推定で、この例のようにもつぱら ③ の中で用いる。この歌では「みよしの吉野の山にみ雪降るらし」というのが推定する内容。「夕されば衣手寒し」というのが、推定の根拠となっている。だから、根拠のある推定というのである。

③	②	①

解答

1 次の()の中の動詞を正しく活用させよ。

- ① 身の全く久しからむことをば(思ふ)ず。
自分の身が、安全で長生きすることを考えない。
(徒然草)
- ② これを(見る)人涙を流さずといふことなし。
これを見る人で涙を流さないということはない。
(平家物語)
- ③ あるいは大家(滅ぶ)て小家となる。
あるものは大きな家がなくなり、小さな家となる。
(方丈記)
- ④ 我(捨つ)て去りなば、ほとほと命も尽きぬべし。
もしも私を捨てて去ってしまったならば、あと少しで命も尽きてしまったことだろう。
(発心集)
- ⑤ 「いとやすし」と、(うなづく)をり。
「たいそう簡単だ」と、うなずいている。
(竹取物語)

⑤	③	①
うなづく	滅び	思は
	④	②
	捨て	見る

解説

1 動詞の活用形の理解を確認する問題

- ①「思ふ」の活用を確認する。「思ふ」に「ず」をつけて未然形にすると、「思は(ha)ず」と「ず」の前がa段音なので、ハ行四段活用と判断できる。「は／ひ／ふ／ぶ／へ／へ」と活用する。ここでは「ず」の上なので未然形の「思は」が正解。
- ②「見る」は、「ひいきにみゐる」と覚えた上一段動詞。上一段動詞の活用を決めるのは「見」の方なので、これはマ行上一段活用。「み／み／みる／みる／みれ／みよ」と活用する。問題では「見る」の下に「人」という体言があるので、連体形の「見る」が正解。
- ③④について。両方とも(動詞)の下に「て」がある。「て」はこれから学ぶことになる接続助詞で、連用形の下に付く(連用形接続)。
- ③「滅ぶ」に「ず」を付けて未然形にすると「滅び(bi)ず」と「ず」の前がi段音なので、バ行上二段活用で「び／び／ぶ／ぶる／ぶれ／びよ」と活用する。下に「て」があるので、連用形の「滅び」が正解。
- ④「捨つ」に「ず」を付けて未然形にすると「捨て(te)ず」と「ず」の前がe段音なので、タ行下二段活用で「て／て／つ／つる／つれ／てよ」と活用する。下に「て」があるので、連用形の「捨て」が正解。
- ⑤「うなづく」に「ず」を付けると「うなづか(ka)ず」となり、「ず」

2 次の傍線部の動詞を終止形になおし(A)、活用の行と種類(B)、文中での活用形(C)を答えよ。

- ① 並み居る。
並んで座る。
- ② 年ぞ暮るる。
年が暮れる。
- ③ 心得る人。
心得がある人。

③		②		①	
C	A	C	A	C	A
連体形	心得	連体形	暮る	終止形	居る
	B		B		B
	ア行下二段活用		ラ行下二段活用		ワ行上一段活用

2 動詞の活用形の理解を確認する問題

- ①「居る」は、「ひいきにみゐる」と覚えた上一段動詞。「居る」をひらがなで書くと「ゐる」となり、上一段動詞の活用を決めるのは「ゐ」の方なので、ワ行上一段活用と判断する。「居る」と活用するのは、終止形と連体形にある。このような場合は、活用形を判定したい語の直後に何がきているかを見る。ここでは、文末を示す「。」があるので、終止形だとわかる。
- ②「暮るる」は活用の種類を判断するため「ず」を付けると「暮れず」となり、「ず」の上がe段音なので、下二段活用と判断できる。活用の行は語尾の「る」のあるラ行。「れ／れ／る／るる／るれ／れよ」と活用するので、「暮るる」が連体形だとわかる。終止形になおすと「暮る」。「暮るる」の下に「。」があるのでに連体形であるのは、上にある係助詞「ぞ」の結びで連体形となっているからである。
- ③「心得」は「得」の複合動詞(二つ以上の語が合わさって、一つになった動詞)。ア行で活用する動詞は「得」だけであったことを思い出そう。「得」の活用の種類を判断するために「ず」を付けて確認する。「得ず」と「ず」の上はe段音となり、ア行下二段活用で「え／え／う／うる／うれ／えよ」と活用することがわかる。「得る」と活用するのは連体形だけ。また、「得る」の下に「人」という体言があることから連体形と判断できることを確認しておこう。

3 次の傍線部の動詞の活用の種類(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 大将を犯す星なむ現^レじたる。
大将を害する星が現れている。
(今昔物語集)
- ② この人を具して去^レにけり。
この人を連れて行ってしまった。
(徒然草)
- ③ 月の都の人まうで来^レば、捕^トへさせん。
月の人たちがやがて参つたら、捕らえさせよう。
(竹取物語)
- ④ あやしきひがごとどもにこそは侍^レらめ。
妙な間違いがございませう。
(増鏡)
- ⑤ いろいろつくしう、さまざまにおは^ス。
とてもかわいらしくて、それぞれでいらつしやる。
(源氏物語)

⑤	④	③	②	①
A	A	A	A	A
サ行変格活用	ラ行変格活用	カ行変格活用	ナ行変格活用	サ行変格活用
B	B	B	B	B
終止形	未然形	未然形	連用形	連用形

4 次の傍線部がナ変動詞であれば活用形を答え、そうでない場合は解答欄にXをつけよ。

- ① ののしり笑ひければ、逃げ去^リにけり。
大騒ぎして笑ったので、逃げ去ってしまった。
(宇治拾遺物語)
- ② この下の渡^カにて、舟うち返して死ぬ。
この下流の渡し場で、舟がひっくり返って死ぬ。
(宇治拾遺物語)
- ③ 夜更けぬ、とにやありけむ、やがて往^リにけり。
「夜が更けた」ということだったのだろうか、そのまま行ってしまった。
(土佐日記)

③	②	①
連用形	終止形	X

3 変格活用動詞を確認する問題

①「現じ」を終止形にすると「現^{けん}ず」。撥音(ん)のあとに濁音化する。これがわかっているならば、本来「現す」であったものが「現ず」となったとわかる。「現+す」のサ変の複合動詞。サ変動詞の活用は「せ/し/す/する/すれ/せよ」。「し」となるのは連用形のみである。「現ず」は「現す」が濁音化したものなので、ザ変動詞とはいわない。

②「去に」を終止形にすると「去^いぬ」。「死ぬ」「去ぬ」と覚えたナ変動詞。ナ変動詞の活用は「な/に/ぬ/ぬる/ぬれ/ぬ」と覚えておけば「去に」と活用するのは連用形だとすぐにわかる。「去ぬ」は「往ぬ」とも表記される。

③「まうで来」はカ変動詞「来」の上に「まうで」が付いたカ変の複合動詞。活用は「こ/き/く/くる/くれ/こ(こよ)」。接続助詞の「ば」の上は未然形か已然形がくるが、已然形は「来れ」と送り仮名が付く。ここでは「来」の下に送り仮名がないので未然形「来」だとわかる。「ば」については本冊56ページの「19 接続助詞」で詳しく学ぶので今は「ば」の上は未然形か已然形だということだけ覚えておこう。

④「侍ら」を終止形にすると「侍り」で「ら/り/りる/れ/れ」と活用するラ変動詞。活用の形から未然形とわかる。

⑤「す」「おはす」がサ変動詞であったことを思い出そう。「。」の上にあるので終止形。

4 ナ変動詞を確認する問題

①「去り」は語尾がラ行で、終止形は「去る」。打消の助動詞「ず」を付けると、「去ら(ら)ず」となるのでラ行四段活用の動詞「去る」の連用形と判断できる。「去りにけり」の「に」は完了の助動詞「ぬ」の連用形。後出の助動詞・識別で詳しく学んでいこう。

②ナ変動詞は「死ぬ」「往ぬ(去ぬ)」の二つしかないのだから覚えておけば、簡単に判断できる。「死ぬ」は終止形。

③「往に」はナ変動詞「往ぬ」の連用形。ナ変動詞は「な/に/ぬ/ぬる/ぬれ/ぬ」と活用し、未然形から命令形まで同じ形になる活用形はないので、活用表をきちんと覚えておけば、連用形であることはすぐわかる。

5 次の()の中の動詞を正しく活用させよ。ただし、ひらがなで答えること。

- ① 丹後より使ひは(来)ずや。
(和歌威徳物語)
- ② 木のまたにすゑんと(す)けるなり。
(古今著聞集)
- ③ 高き山の峰の、下り(来)べくもあらぬに置きて逃げて(来)ぬ。
(大和物語)

③	②	①
き	く	し
		こ

6 次の()の中の形容詞を正しく活用させよ。

- ① 昔の人は、いささかのことをも、(いみじ)自賛したるなり。
(徒然草)
- ② (ありがたし)もの、しゅうとにほめらるるむこ。
(枕草子)
- ③ いと(あやし)さまを人や見つらん。
(源氏物語)
- ④ 散ればこそいと桜は(めでたし)。
(伊勢物語)

④	③	②	①
	あやしき	ありがたき	いみじく
			めでたけれ

5 変格活用動詞の活用を確認する問題

語を正しく活用させるには、その後の直後にどのような語があるかを確認すればよい。

①「来」はカ変動詞で「こ／き／く／くる／くれ／こ(こよ)」と活用する。「来」の直後にある「ず」は助動詞。「ず」は未然形の下に付く(未然形接続)というきまりがある。そこでカ変動詞の未然形「こ」が正解となる。

②「す」はサ変動詞で「せ／し／す／する／すれ／せよ」と活用する。下に続く「ける」は「8 助動詞 き・けり」(本冊26ページ参照)で詳しく学習するが、上には連用形の語がくる助動詞である(連用形接続)。そのため、サ変動詞「す」の連用形「し」が正解となる。

③「来」はカ変動詞。一つ目の「来」の下にある「べく」は助動詞「べし」の連用形で「14 助動詞 べし・まじ」(本冊42ページ参照)で詳しく学習するが、上には終止形(ラ変型には連体形)の語がくる。そのため、ここは終止形の「く」が正解となる。二つ目の「来」の下に続く「ぬ」は完了の助動詞「ぬ」(本冊28ページ参照)で、上には連用形の語がくる(連用形接続)。そのため、ここでは「き」が正解。

本冊22ページから助動詞について学習するが、助動詞はそれぞれどんな語や活用形の下に続くのかがきまっている。そのきまりを覚えていないと活用形の判断が難しくなることも多いので、しっかり学んでいこう。

6 形容詞の活用形を確認する問題

語の活用形を考えるときは、判断したい語の直後に何がきているかを見ればよい。

形容詞の場合、「○／く／し／き／けれ／○」と活用する本活用は、下に助動詞以外のものが付く。「から／かり／○／かる／○／かれ」と活用する補助活用は、下に助動詞が付く。

①「いみじ」は「いみじくなる」となり、シク活用。「いみじ」のあとにあるのはサ変の複合動詞「自賛す」。動詞(＝用言)に接続するので「いみじ」を連用形にする。「いみじ」の直後は助動詞ではないので、本活用の連用形を答える。

②「ありがたし」は「ありがたくなる」となり、ク活用。「ありがたし」の直後は名詞(＝体言)の「もの」。そこで「ありがたし」を体言が下に続く形(連体形)にする。体言に接続するので、本活用の連体形「ありがたき」となる。

③「あやし」は「あやしくなる」となり、シク活用。「あやし」の直後は名詞(＝体言)の「さま」。「あやし」を連体形にする。体言に接続するので、本活用の連体形「あやしき」となる。

④「めでたし」は「めでたくなる」となり、ク活用。文中に係助詞「こそ」があるので、文末の語は結びのため已然形となる。「めでたし」の已然形は、「めでたけれ」。

7 次の各文中から形容詞・形容動詞を抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① 空^{そら}だきの香、こころにくくかをりて、まことに優なり。
わざとらしくはないお香が、おくゆかしく香ってきて実に優雅である。(十訓抄)
- ② 憂へなきを楽しみとす。
心配事がないことを楽しみとしている。(方丈記)
- ③ 心おのづから静かなれば、無益のわざをな^{むやく}さず。
心がおのずと穏やかなので、むだなことはしない。(徒然草)
- ④ あけて出で入る所たてぬ人、いとにくし。
開けて出入りする所を閉めない人は、とても気に入らない。(枕草子)

④	③	②	①	
A	A	A	A	A
			優なり	こころにくく
		なき		
		静かなれ		
		にくし		
B	B	B	B	B
終止形	已然形	連体形	終止形	連用形

※①の解答は順不同。

8 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① 咲く花の下に隠るる人を多^{おほ}みありしにまさる藤の陰^{かげ}かも
咲く花の大きな花房の下に入って、隠れる人が多いので、以前にもまして盛大な藤の花陰だなあ。(伊勢物語)
- ② 山^{やま}ふかみ春ともしらぬ松の戸にたえだえかかる雪の玉^{たま}水
山が深いので春が来たともわからない(私の家の)松の戸に、途絶え途絶え落ちかかってくる玉のように美しい雪どけの水よ。(新古今和歌集)

②	①
山が深いので	人が多いので

7 形容詞、形容動詞を文中から識別する問題

形容詞・形容動詞は物事の状態や性質をあらわすものである、という基本をもう一度確認して問題文を読んでみよう。

- ① この文の中で、物事の状態や性質をあらわしているものは「こころにくく」と「優なり」の二つ。活用表を覚えていけば、「こころにくく」は形容詞ク活用、「優なり」は形容動詞ナリ活用であることは、すぐわかる。「こころにくく」は「かをり」という用言が下にあり連用形。「優なり」はここで文が終わっているので、終止形。
- ② 「なき」は形容詞ク活用の「なし」の連体形。「を」の前に「こと」などの体言が省略された形であり、活用を覚えていないと連体形と見抜けないので、しっかり覚えておこう。
- ③ 「静かなれ」は形容動詞ナリ活用の「静かなり」の已然形。
- ④ 「にくし」は形容詞ク活用「にくし」の終止形。

8 語幹の用法を確認する問題

形容詞の語幹の用法。「名詞(+)を」+「形容詞の語幹(+み)」の形は「名詞が形容詞の語幹なので」と訳す。「を」がない場合もあるが、訳し方は変わらない。「み」は接尾語。

- ② の「山が深い」とは山奥であるということ。

解説

1 過去の助動詞を見つける問題

「せ／＼／＼／しか／＼」という活用のしかたをきちんとおさえておくと、簡単に解答できる。

①は一目瞭然。「侍りき」の「き」が、過去の助動詞「き」の終止形。

②は「通ひし」の「し」が、過去の助動詞「き」の連体形。過去の助動詞「き」は連体形「し」の形で使うことが多いので注意が必要。

③は「なかりせば」の「せ」が過去の助動詞「き」の未然形。未然形の「せ」は「AせばBましへもしAだったならば、Bだっただろうに」という反実仮定の構文(詳しくは本冊46ページ参照)にだけ登場する。これをサ変動詞「す」の未然形だとする説もあるが、受験生としては過去説にしたがって置いて問題はない。

解答

1 次の各文中から、過去の助動詞をそのままの形で抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① にはかに都遷り侍りき。
(方丈記)
急に遷都が行われました。
- ② 昔もひとたびふたたび通ひし道なり。
(源氏物語)
昔も一度二度通った道である。
- ③ 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
もし世の中に全く桜というものがなかったならば、春の人の心はのどかなものであつただろうに。
(古今和歌集)

③	②	①
A	A	A
せ	し	き
B	B	B
未然形	連体形	終止形

2 次の傍線部の「けり」のうち、詠嘆でないものを選び記号を答えよ。

- ① 「犬なども、かかる心あるものなりけり」と笑はせ給ふ。
[犬などにも、こうした(人間のような)心があるものなのだなあ]とって帝がお笑いになる。
(枕草子)
- ② 人もなき空しき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり
妻のいなくなった空しい家は、旅にもまさって苦しいことだなあ。
(万葉集)
- ③ 式部卿宮、明けん年ぞ五十になり給ひける。
式部卿宮は、翌年五十歳におなりになった。
(源氏物語)
- ④ ふるさととなりにし平城の都にも色はかはらず花は咲きけり
昔の都になつてしまったこの奈良の地にも、色は変わらず花は咲くものなのだなあ。
(古今和歌集)

③

解説

1 過去の助動詞を見つける問題

「せ／＼／＼／しか／＼」という活用のしかたをきちんとおさえておくと、簡単に解答できる。

①は一目瞭然。「侍りき」の「き」が、過去の助動詞「き」の終止形。

②は「通ひし」の「し」が、過去の助動詞「き」の連体形。過去の助動詞「き」は連体形「し」の形で使うことが多いので注意が必要。

③は「なかりせば」の「せ」が過去の助動詞「き」の未然形。未然形の「せ」は「AせばBましへもしAだったならば、Bだっただろうに」という反実仮定の構文(詳しくは本冊46ページ参照)にだけ登場する。これをサ変動詞「す」の未然形だとする説もあるが、受験生としては過去説にしたがって置いて問題はない。

2 「けり」の意味を過去と詠嘆とにわけ問題

「けり」には過去と詠嘆がある。古文を読んでいて「けり」に出くわしたら、過去になるのか詠嘆になるのかをいつも考えるようにしよう。詠嘆の「けり」は、会話文中、和歌中に多く、「なりけり」の形をとりやすい。そこがポイント。

①は「」が付いていて、会話文であることがわかる。また、「なりけり」の「けり」でもあるから、詠嘆と判断。

②は出典が『万葉集』(日本最古の歌集)であり、全体が「五七五七七」のリズムに区切れるから、和歌中の「けり」とわかる。和歌中の「けり」は、ほぼ100パーセントに近く詠嘆になる。よって②も詠嘆と見ていい。

③の「けり」は、会話文中でもなく、和歌中でもなく、「なりけり」の形もとっていない。だから詠嘆ではなく、過去だと考える。

④も和歌。和歌には読点()や句点()が付けられていない。「」や「。」がなければ和歌ではないかと考えよう。和歌中の「けり」なので、④も詠嘆。

よって、正解は③。

3 次の各文中から、完了の助動詞をそのままの形で抜き出せ。

- ① この男、垣間見てけり。
(伊勢物語)
- ② 雀の子を犬君が逃がしつる。
(源氏物語)
- ③ 花もみな咲きぬれど、音もせず。
(更級日記)
- ④ 河内へも行かずなりにけり。
(伊勢物語)

④	③	②	①
に	ぬれ	つる	て

4 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① 雨降りぬ。
(土佐日記)
- ② 風も吹きぬべし。
(土佐日記)

①	降った
②	きつと吹くだろう

5 次の傍線部の助動詞の意味が強意のものを二つ選び、その記号を答えよ(順不同)。

- ① なにの身にこのたびはなりぬらむ。
(枕草子)
- ② 当代まで六十八代にぞならせ給ひにける。
(大鏡)
- ③ 天気のこと、楫取の心にまかせつ。
(土佐日記)
- ④ かくしつ世は尽きぬべきにや。
(源氏物語)

①	④
---	---

2 練習問題 助動詞 き・けり・つ・ぬ・たり・り

3 完了の助動詞に慣れるための問題

- ①は本冊28ページの「ここがポイント！」でもふれた、「てき」「てけり」の問題。「てき」「てけり」の「て」は完了と即答できるようにしたい。「て」は完了の助動詞「つ」の連用形である。
- ②は文末の「つる」が完了の助動詞「つ」の連体形。係り結びでもないのに文末に連体形が出るのはなぜだ…と、考えた人は立派。この文のように、理由もなく文末に連体形があらわれた場合を「連体形止め」といい、余情詠嘆の気持ちをこめて文を終止する。

●連体形止め…余情詠嘆(〜コトヨ・〜コトダ)
 例花咲きぬる。
 花が咲いたことよ。

- ③は、「ど」の直前の「ぬれ」が完了の助動詞「ぬ」の已然形。
- ④は入試頻出の形。本冊28ページの「ここがポイント！」にもあげた「にき・にけり・にたり」である。「にけり」の「に」が完了「ぬ」の連用形になる。「行かずなりにけり」の「なり」は四段活用動詞「なる」の連用形。

4 「つ」「ぬ」の強意の用法を確認する問題

「つ」と「ぬ」は下に推量の助動詞がきたら強意になる。本冊28ページにまとめた通り、「つ」「ぬ」に推量の助動詞が付くときの形は、「てむ・なむ・つべし・ぬべし・つらむ・ぬらむ・てまし・なまし・てけむ・にけむ・つめり・ぬめり・つらし・ぬらし・てむず・なむず」の16通りしかない。この形は早めに覚えてしまったほうが、後々のためになる。

①は下に推量の助動詞がきていないから、ただの完了。訳は「降った」でも「降ってしまった」でもよい。

②は下に推量の助動詞があるから、強意。「きつと吹くだろう」でも、「必ず吹くだろう」でもよい。

5 強意の「つ」「ぬ」を見分けるための問題

「つ」「ぬ」の下に推量の助動詞がきていたら、強意の意味となる。ここでは①「ぬらむ」と④「ぬべき」がそれに該当。

6 次の各文中から助動詞「たり」「り」をそのままの形で抜き出し (A)、その活用形を答えよ (B)。

- ① 楫取は舟歌うたひて、何とも思へらず。
(土佐日記)
- ② うつくしきもの。瓜にかきたる稚児の顔。
(枕草子)
- ③ 兼行が書ける扉、あざやかに見ゆるぞあはれなる。
(徒然草)
- ④ 我死なむ後に、たちまちに葬することなくして、九日置きたれ。
(今昔物語集)

④	③	②	①
A	A	A	A
たれ	る	たる	ら
B	B	B	B
命令形	連体形	連体形	未然形

7 次の傍線部を現代語訳せよ。

- ① その沢に、かきつばた、いとおもしろく咲きたり。
(伊勢物語)
- ② 遊女三人、いづくよりともなく出で来たり。
(更級日記)
- ③ その辺りに、照り輝く木ども立てり。
(竹取物語)

③	②	①
立っている	出て来た	咲いている

6 完了の助動詞「たり」「り」に慣れるための問題

- ①は「思へらず」の「ら」が完了(存続)の「り」である。「り」は「ら／り／る／れ／れ」と活用するから、①の「ら」は未然形ということになる。
- ②は「かきたる」の「たる」が完了(存続)の助動詞。「たり」は「たら／たり／たる／たれ／たれ」と活用するから、②の「たる」は連体形である。
- ③は「書ける」の「る」が完了の「り」の連体形。完了の「り」は「書け(e)る」のように、必ず「e」段音の下に付く。これ以外の「る」についても確認しておこう。「見ゆる」の「る」はヤ行下二段動詞「見ゆ」の連体形「見ゆる」の一部。「あはれなる」の「る」は形容動詞「あはれなり」の連体形「あはれなる」の一部。
- ④は文末の「たれ」が完了(存続)の助動詞。「たり」は「たら／たり／たり／たる／たれ／たれ」と活用するから、④の「たれ」は已然形か命令形。文末の「たれ」は、上に係助詞の「こそ」がなければ命令形と考える。「九日こそ置きたれ」なら「たれ」は已然形。問題は「九日置きたれ」なので命令形。

7 「たり」と「り」の訳し方の練習問題

本冊29ページにまとめたように、「たり」と「り」には完了(テシマッタ)と存続(〜テイル・〜テアル)の意味がある。

訳すにあたっては、まず存続で意味をとり、不自然になったら完了にまわす。

存続と完了とは、厳密に考えるとすっきりわけにくい場合もあるが、そこまでは入試に出ないから、迷ったら「存続」でとるのがいい。

①は「その沢に、かきつばた、いとおもしろく咲きたり」。これを存続で訳してみると、「その沢に、かきつばたが、たいそう美しく咲いている」。特に不自然なところは感じられないので、そのまま存続にしておく。

②は「遊女三人、いづくよりともなく出で来たり」。これを存続で訳してみると、「遊女が三人、どこからともなく出て来ている」となり、「出て来ている」の部分がやや不自然。そこで完了にまわして、「遊女が三人、どこからともなく出て来た」と考える。

③は「その辺りに、光り輝く木ども立てり」。これを存続で訳すと、「その辺りに、光り輝く多くの木が立っている」。特に不自然ではないから③も存続だと考える。

解答

1 次の空欄に助動詞「る」「らる」のどちらか適当な方を入れよ
(終止形のままでよい)。

- ① 人に疑は 。
- ② 人に害せ 。
- ③ 人に命ぜ 。

①	②	③
る	らる	らる

2 次の傍線部の助動詞「る」「らる」の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 盗人なりければ、国の守にからめられにけり。
(伊勢物語)
- ② 大将いとま申して、福原へこそ帰られけれ。
(平家物語)
- ③ 湯水ものどへ入れられず。
(平家物語)
- ④ 今日京都のみぞ思ひやらる。
(土佐日記)

④	③	②	①
A	A	A	A
自発	可能	尊敬	受身
B	B	B	B
連体形	未然形	連用形	連用形

解説

1 「る」と「らる」の接続を確認する問題

「る」は四段・ナ変・ラ変の未然形(a段音)に付き、「らる」はそれ以外の動詞の未然形に付く。そこで、①から③までの空欄の上に、四段・ナ変・ラ変動詞の未然形があれば、「る」。それ以外の動詞の未然形があれば「らる」を選ばよということになる。

①は空欄の上に、四段活用の動詞「疑ふ」の未然形がある。だから、解答は「る」にする。

②と③は、空欄の上にサ変の複合動詞「害す」と「命ず」の未然形がある。だから、両方とも「らる」を選ぶ。

2 「る」「らる」の意味と活用を確認する問題

まず、意味。①は「国の守に」とある点に注意。「る」に「+」る・らる」の形は受身である。

②は「大将」とある点に注意。「大将」は「だいしやう」と読み、近衛このえ府かみ(天皇の守護などを任務とした役所)の長官。貴人といつていい。「貴人」が主語のときは尊敬となることが多い。

③は「られず」で、下に打消の語をとまうから、典型的な可能の形。

④は「思ひやる」という心情動詞に付いていることに注意。「知覚動詞・心情動詞」+「る・らる」は自発の典型的な形である。

次に、活用形。①の「られ」は受身の助動詞「らる」の連用形。「らる」は「られ/られ/らる…」と活用するから、未然形か連用形か判別がつかない。このような場合は、指摘された箇所、ここでは「られ」の下に何があるかを確認しよう。「られ」の下の「に」は完了の助動詞「ぬ」の連用形。完了の「ぬ」の上には連用形がくるから、「られ」は連用形となる。

②の「れ」は尊敬の助動詞「る」の連用形。「る」は「れ/れ/る…」と活用するから、未然形でも連用形でもよさそうだが、下に過去の助動詞「けり」の已然形の「けれ」があることに注目。「けり」の上は連用形である。

③の「られ」は可能の助動詞の未然形。下に打消の助動詞「ず」がある。「ず」の上は未然形である。

④は係り結びに注意。「都のみぞ」の「ぞ」が文末にかかってくるので、「るる」は連体形。

3 次の各文中から助動詞「る」「らる」「す」をそのままの形で抜き出し(A)、その意味を答えよ(B)。

① 西の宮の左大臣流され給ふ。(蜻蛉日記)

② あるやむごとなき人仰せられき。(徒然草)

③ 家の造りやうは夏を旨とすべし。冬はいかなる所にも住まる。家の造り方は、夏を第一に考えて造るのがよい。冬はどんなところにも住むことができる。(徒然草)

④ いかにか結びおきける前の世のちぎりにかと、もののみ思ひつづけられて、あはれ、しのびがたきこちす。(讃岐典侍日記)

⑤ おほつかなきもの。ものもまだ言はぬ乳児の、反りくつがへり人にも抱かれず泣きたる。(枕草子)

②	①
A	A
られ	れ
B	B
尊敬	受身

⑤	④	③
A	A	A
れ	られ	る
B	B	B
受身	自発	可能

4 次の空欄に助動詞「す」「さす」のどちらか適当な方を入れよ(終止形のままですよ)。

① 妻の媪に預けて養は[]。(竹取物語)

② 贈り物、御覧ぜ[]。(源氏物語)

①	②
す	さす

3 「る」「らる」の意味について、さらに理解を深めるための問題

①は「れ給ふ」「られ給ふ」の形。この形の「れ」「られ」は受身か自発になるのが原則。自発にすると、「左大臣が自然と流しなされる」というわけのわからない内容になるので、受身と見る。

②は「仰せらる」の「らる」は絶対に尊敬になると覚えていれば容易。よって「仰せられき」の「られ」は尊敬。

③は「住まる」の「る」が可能。出典が『徒然草』であることに注意。平安時代の場合、可能は打ち消して使うのが原則だが、『徒然草』は鎌倉末期の作品なので、しばしば可能の「できる」という肯定の形で使われている。この③の短文は入試頻出なので、覚えておいたほうがよい。

④は「思ひつづけられて」の「られ」が自発の助動詞「らる」の連用形。抜き出しに注意。「思ひつづく」(カ行下二段)の未然形が「思ひつづけ」となる。自発は心情動詞・知覚動詞に付きやすい。「思ひつづく」は心情動詞である。

⑤は「人にも抱かれず」の「れ」が受身。「れず」は可能の典型的な形。また「く」に「らる」は受身の形。このように公式が重なるときは文脈判断で決める。可能の意味で訳すと「人にも抱くことができず泣いている」とわけのわからない文になる。よってここでは受身とする。

4 「す」「さす」の接続を確認する問題

「す」は四段・ナ変・ラ変動詞の未然形に付き、「さす」はそれ以外の動詞の未然形に付く。「す」と「さす」の接続の違いは、「る」と「らる」の接続の違いと全く同じである。

①は空欄の上に四段活用動詞「養ふ」の未然形がある。だから「す」。

②は空欄の上にサ変動詞「御覧ず」の未然形がある。だから「さす」。

5 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 下部に酒飲ますることは心すべきことなり。
下層階級の者に酒を飲ませることは、注意すべきことである。 (徒然草)
- ② 関白殿、黒戸より出でさせ給ふ。
関白殿が、黒戸からお出ましになる。 (枕草子)
- ③ 隨身にうたはせ給ふ。
隨身に歌わせなさる。 (堤中納言物語)
- ④ おほやけも行幸せしめ給ふ。
天皇もお出かけになる。 (大鏡)

③	①
使役	使役
④	②
尊敬	尊敬

5 「す」「さす」の意味を判別する問題

- ①は「する」の下に尊敬語がないから、使役の助動詞「す」の連体形である。下に尊敬語がないかぎり、「す」「さす」は絶対に尊敬にはならない。
- ②は「せ給ふ・させ給ふ・しめ給ふ」の典型的な二重尊敬の形である。二重尊敬はこの例のように、天皇・上皇をはじめとする皇族や、摂政・関白など最高に身分が高い人々に使う。この「させ」も尊敬の助動詞「さす」の連用形で、関白を敬うために用いられている。
- ③は二重尊敬の形だが、前に「隨身に」ということばがあるので使役にする。「せ給ふ・させ給ふ・しめ給ふ」でも、上に「〜(誰々)」に「があるときは使役にするのが原則である。「せ」は使役の助動詞「す」の連用形。
- ④も②と同じで二重尊敬の形。「おほやけ(公)」は「天皇」のこと。「行幸」は「天皇のお出かけ」をいう。

6 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 持たせたる旗、あげさせよ。
持たせている旗をあげさせよ。 (平家物語)
- ② 君も臣も、大きに騒がせおはします。
君主(天皇)も臣下も、たいそうお騒ぎになっていらつしやる。 (平家物語)
- ③ 帝おりさせ給ひぬれば、東宮位につかせ給ひぬ。
天皇が退位なさったので、皇太子が位におつきになった。 (栄花物語)
- ④ 内(天皇)にも、このかたに心得たる人々に弾かせ給ふ。
天皇におかれても、音楽の方面に心得のある女房たちに(琴を)お弾かせになる。 (源氏物語)

③	①
尊敬	使役
④	②
使役	尊敬

6 「す」「さす」の意味について、さらに理解を深める問題

- ①は下に尊敬語がないから、使役。使役の助動詞「さす」の命令形。
- ②は「せ」の下に「おはします」という尊敬語がある。「せ給ふ」と同じで、これも二重尊敬。上の「君」は「君主」という意味だが、ここでは天皇のこと。
- ③は「せ」が尊敬の助動詞「す」の連用形。「せ給ふ」で、典型的な二重尊敬の形である。「東宮」は「春宮」とも書き、「皇太子」のこと。なお、「位に」があるから「使役」だと考えてはいけない。使役の前にある「〜に」の「〜」は人物でなければならぬ。
- ④は「せ」が使役の助動詞「す」の連用形。主語の「内」は「天皇」。「せ給ふ」だから二重尊敬にしたいところだが、上に「人々に」とあるので使役にする。ちなみに、「内にも」というのは、古文独特の主語の言いあらわし方で、「天皇におかれても」などと訳す。「上にも」とか「御前にも」ということも多い。そのまま「天皇にも」と訳さないように注意すること。

7 次の各文中の打消の助動詞をそのままの形で抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

① げにただ人にはあらざりけり。
ほんとうにぶつうの人ではなかったよ。
(竹取物語)

② 京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。
都では見かけない鳥なので、そこにいた人は誰も見てわからない。
(伊勢物語)

③ 風の吹くことやまねば、岸の波立ちかへる。
風が吹くことがやまないで、岸の波も逆巻いている。
(土佐日記)

③	②		①
A	A	A	A
ね	ず	ぬ	ざり
B	B	B	B
已然形	終止形	連体形	連用形

※②の解答は順不同。

7 打消の助動詞に慣れる問題

打消の助動詞は活用をすっかり覚えておくのがポイント。特に「ぬ」や「ね」の形は完了の助動詞にもあるので注意したい。

①は「ざり」。活用を覚えておいて「連用形」と解答してもいいし、「けり」(連用形接続の助動詞)の上だから連用形と答えてもいい。

②は二つあることに注意。一つは「見えぬ」の「ぬ」。これは打消の助動詞「ず」の連体形。「ぬ」は完了の助動詞とも考えられるが、体言(鳥)の上は連体形になることに注意しよう。完了の助動詞なら「見えぬ鳥」になるはずだ。もう一つは文末の「ず」。これは打消の助動詞「ず」の終止形。

③は「やまねば」の「ね」。これは打消の助動詞「ず」の已然形。打消の已然形「ね」は「ねば・ねど・ねども」の形で文中にあらわれることが多い。「ねば・ねど・ねども」の「ね」は打消、と覚えておこう。

解答

1 次の傍線部「む」の意味を答えよ。

- ① 我行かむ。
私は行こう。
- ② 汝行かむ。
あなたが行くのがいい。
- ③ 花咲かむ。
花が咲くだろう。
- ④ 花咲かむ時。
花が咲くような時。

③	①
推量	意志
④	②
婉曲(仮定)	勧誘(適當)

解説

1 「む」の用法を確認する問題

「む」はたくさん意味があるから、「す・い・か・か・え」と、まず頭文字を覚えるとうい。意味を判別するときは、仮定・婉曲をまず見極めよう。仮定と婉曲とは文中に連体形で使われるから、ふつう見た目ですぐに判断ができる。

④は「花咲かむ時」。この「む」は文中に連体形で使われているから、解答は婉曲でも仮定でもいい。

①から③までは文末用法である。これは主語によって、推量か意志か勧誘(適當)かを見きわめる。

まず①は「我」が一人称だから意志。次に②は「汝(＝あなた・おまえ)」が二人称だから勧誘(適當)。③は主語の「花」が三人称だから推量となる。

2 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 「この障子口に、まろは寝たらむ。」
(源氏物語)
- ② 「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ。」
(枕草子)
- ③ 「なかかくは急ぎ給ふ。花を見てこそ帰り給はめ。」
(うつつは物語)

③	①
勧誘(適當)	意志
	②
	推量

2 「む」の意味判別を、実際の古文の用例で学ぶ問題

①から③まではすべて文末用法なので、婉曲・仮定はない。

①は「まろ」が一人称代名詞なので、意志。「まろ」は男女ともに使う男とは限らないので、読解のときには注意が必要だ。「私」と訳す。

②は「香炉峰の雪」が主語。前の「少納言よ」は呼びかけのことば。主語ではない。「香炉峰の雪」が三人称なので、「む」は推量にする。「む」の前にある「いかなら」は、形容動詞「いかなり」の未然形で「どのようだ」という意味である。

③は「こそ—め」の形であることに注意。この形は「勧誘(適當)」で出題されやすい。「こそ—め」とあれば、主語として「あなたは」というのを強引に押し込んでみる。勧誘の「こそ—め」に主語が書いてあることはほとんどないからだ。そしてこれも強引に、「するのがよい」と訳してみる。はまれば「勧誘(適當)」に決定。③の場合、「どうしてこんなにお急ぎになるのですか。(あなたは)梅の花を見てお帰りになるのがよい」と訳してもおかしくないから「勧誘(適當)」にする。

3 次の傍線部の助動詞の意味(A)と活用形(B)を答えよ。

- ① 思はむ子を法師になしたらむこそ、心苦しけれ。
(枕草子)
愛する子を、もし出家させたとしたら、気の毒なことである。
- ② 「我こそ死なぬ」とて、泣きののしること、いと耐へがたげなり。
(竹取物語)
「私が死のう」といって(筋が)泣き騒ぐさまは、たいそう耐えがたい様子である。
- ③ 年五十になるまで上手に至らざらん芸をば捨つべきなり。
(徒然草)
年が五十になるまで名人の域に達しないような芸は捨てた方がよい。

③	②	①
A	A	A
婉曲(仮定)	意志	婉曲(仮定)
B	B	B
連体形	已然形	連体形

3 「む」の意味判別についてさらに理解を深める問題

- ①は文中用法なので、婉曲でも仮定でもいい。婉曲であれば、「愛する(ような)子」。仮定であれば、「もし愛しているのなら、その子」である。「む」の下に体言の「子」があるので連体形となる。
- ②は意志。「こそ—め」の形だからといって、すべてが勧誘になるわけではない。勧誘など、長文を読んでいるとほとんど出てこないのだが、出るとすれば「こそ—め」の「め」には勧誘の意が入っているかもしれないよ…と、そんなふう理解しておいてほしい。この場合も、主語が「我」で一人称なので、解答は「意志」になる。「こそ」の結びなので「め」は已然形。
- ③は「む」が「ん」の形で出ている。「ん」で出ると初心者には打消と勘違いしやすいから注意が必要。これも文中の連体形だから仮定でも婉曲でもよい。

4 次の傍線部を、例にならって品詞分解せよ。

死なんずるは、思ひまうけたれば、命は惜しくもあらず。
死ぬことは、覚悟しているから、命は惜しくもない。(宇治拾遺物語)

例 名詞 雨 — 助詞 の — 動詞 降り — 助動詞 ける — 名詞 こと

死 助動詞 な — 助動詞 ん — 助動詞 ず — 助動詞 る — 助動詞 は

5 次の各文を現代語訳せよ。

- ① 雨降らじ。
- ② 我行かじ。

① 雨は降らないだろう。(雨は降るまい。)
② 私は行かないつもりだ。(私は行くまい。)

4 「むず(んず)」の入試問題演習

助動詞「むず」については、意味を判別する問題がほとんどない。もし出たとしても、「む」と同じように考えれば解答が出る。
ではどんな問題が出るかというと、ほとんどが品詞分解の問題である。あわてると、「むずる」を「むず+る」と切ったり、「む+ず+る」と切ったりするから注意。「むず」は「○/○/むず/むずる/むずれ/○」という活用を、品詞分解のためにしっかり覚えておくことが重要だ。傍線部は「んずる」だから「むず」の撥音便化した「んず」の連体形。

5 「じ」の用法を確認し現代語訳する問題

「じ」は打消意志と打消推量の区別を付けるのがポイント。主語が一人称ならば、打消意志。それ以外なら打消推量だ。
①は打消推量。②は一人称が主語(「我」)なので打消意志。

6 次の空欄に動詞「思ふ」を正しい形に入れて入れよ。

- ① 人を らむ。
- ② 人を けむ。

①	思ふ
②	思ひ

6 「らむ」と「けむ」の接続を確認する問題

「らむ」は終止形に付き、「けむ」は連用形に付く。そして、「12 助動詞 む・むず・じ」で学習した「む」の接続は未然形であった。「む」「らむ」「けむ」は三兄弟のようなもので、活用パターンも同じなのだが、接続は全く異なるので気を付けてほしい。

- ①は「らむ」の上だから「思ふ」をそのまま終止形に入れる。
- ②は「けむ」の上なので連用形にして「思ひ」を入れる。

7 次の傍線部を「らむ」の用法に注意して現代語訳せよ。

- ① 奥山に花咲くらむ。
奥山に花が咲いているだろう。
- ② 唐土に咲くらむ花。
中国に咲いているとかいう花。

①	花が咲いているだろう
②	咲いているとかいう花

7 「らむ」の意味判別をマスターする問題

「らむ」は「む」に比べると、入試での出題頻度は高くないが、①と②程度の区別はできるようにしたいものである。

- ①は文末に使われているので、現在推量。「咲いているだろう」と訳す。
- ②は連体形の文中用法なので、「現在の伝聞」か「現在の婉曲」。どちらになるかは文脈判断をするしかないのですが、まず「現在の伝聞」で「〜いるとかいう」と訳し、不自然なら「現在の婉曲」で「〜いるとかいう」と訳すといふ。②は「中国に咲いているとかいう」と訳してもおかしくないのです。現在の伝聞である。

8 次の傍線部「けむ」の意味を答えよ。

- ① 前の世の罪なりけむ。
前世の（自分が犯した）罪であったのだろう。
- ② 古にありけむ鳥も、今はなし。
昔いたとかいう鳥も、今はいない。

①	過去の推量
②	過去の伝聞

8 「けむ」の意味判別をマスターする問題

「けむ」は「らむ」と全く同じように考える。

- ①は文末用法なので、過去推量。「〜た（の）だろう」と訳す。
- ②は連体形の文中用法なので、「過去の伝聞」で「〜たとかいう」か「過去の婉曲」で「〜たような」と訳す。「らむ」と同じように、まず「過去の伝聞」で訳してみても、不自然なら「過去の婉曲」にする。②の場合「昔いたとかいう鳥」でおかしくないで「過去の伝聞」にする。

9 次の傍線部の「らむ」のうち、現在推量の助動詞であるものはどれか答えよ。

- ① 文を置きてまからむ。
手紙を置いておいとましよう。
（竹取物語）
- ② わが背子はいづく行くらむ。
私の夫はどこを旅しているのだろう。
（万葉集）
- ③ あはれ知れらむ人。
ものの情趣を理解している（ような）人。
（後撰和歌集）

②

9 現在推量の助動詞「らむ」を他の語と区別する問題

現在推量の助動詞「らむ」の接続は終止形。したがって、①から③のうち、終止形に付く「らむ」が現在推量だと考えよう。

- ①は四段活用の動詞「まかる（退出する）」の意の謙譲語「」の未然形「まから」の活用語尾に、推量（意志）の助動詞「む」がくっついた形なので論外。これは現在推量の「らむ」ではない。
- ②は「行く」が四段活用の動詞「行く」の終止形。終止形に付くので下の「らむ」は現在推量。よってこれが正解。
- ③は「知れ」が四段活用の動詞「知る」の已然形。四段の已然形に付く「ら」は、完了の助動詞「り」の未然形。「む」は推量（婉曲）の助動詞の連体形。

ついでながら、現在推量「らむ」の上にくることはほとんどが「u 段音」になる。「行く（u）らむ」「散る（u）らむ」「言ふ（u）らむ」という要領。「u 段音+らむ」は現在推量、と覚えておいても便利だ。

10 次の傍線部の助動詞の意味を答えよ。

- ① 我かならず万歳をうたふべし。
(雨月物語 私が必要でどうのこぼを述べましよう。)
- ② これは汝が髻と思ふべからず、主の髻と思ふべし。
(平家物語 これはお前の髻(束ねた髪)と思つてはならない、主人の髻と思いなさい。)
- ③ 今日は日暮れぬ。勝負を決すべからず。
(平家物語 今日は日が暮れてしまった。勝負を決めることはできない。)

①	意志
②	命令
③	可能

10 「べし」の意味を確認する問題

「べし」は文法というより読解であつかうべきテーマである。文法知識としては、六つの意味と訳し方をしっかり覚えておくこと。ここでは、入試によく出る三つの用法を確認する。

①のように、終止形で使われると意志か命令で出題されることが多い。主語が一人称であれば、意志。二人称であれば、命令にする。①は主語が「我」なので意志が正解である。

②は同じく終止形だが、主語が二人称だと考えられるので、命令。まず、はじめの部分で「これはお前の髻だと思つてはならない」と、話している人が「汝(お前)」に向かって発言していることに注意。素直に考えると、次の部分は「(お前は)この髻を」主人の髻だと思いなさい」と言っていることになる。

③は可能。この「べからず」のように、「べし」を下の語が打ち消すと可能の意味でよく出題される。問題で「べし」が打消文中に出ていたら、まず可能から考えてみるとよい。

11 次の傍線部の助動詞の意味を、ア～オから選んで答えよ。

- ① 唐の物は、薬のほかは、なくとも事欠くまじ。
(徒然草 中国からの輸入品は、薬の他は、なくても不便はないだろう。)
- ② 妻といふものこそ、男の持つまじきものなれ。
(徒然草 妻というものは、男は持つべきではないものだ。)

- ア 打消推量 イ 禁止 ウ 不可能
エ 打消当然 オ 打消意志

①	ア
②	エ

11 「まじ」の意味を確認する問題

「まじ」は入試での出題頻度が低い。現代語訳の問題がたまにあるから、大まかな意味と、「まじ」が「べし」の打消であることを知っていればこと足りるだろう。

「まじ」が出たら、まず「〜まい」と訳してみる。これが当てはまれば打消推量か打消意志である。主語が一人称なら打消意志。それ以外は打消推量。

①「なくとも事欠くまい」と訳してもおかしくはない。「私は…」ということではなく、一般論のようなので打消推量と見る。

②「〜まい」では無理がある。そんなときは、「〜べきでない」と訳してみる。「まじ」は「べし」を打ち消したもの、つまり「べし+ず」なのだから、「べきでない」という訳が当てはまることは多いはずだ。「男は妻など持つべきでない」。これで訳せたら、打消当然。

以上の二つで片付かなかつた場合は、禁止や不可能を考えてみる。しかし、普段長文を読むときには、そこまで考えなければならぬことはほとんどないだろう。

解答

1 次の空欄に正しい語を入れよ。

- ① 鏡に色・形あら□ば、映らざらまし。(徒然草)
もし鏡に色や形があったならば、ものの姿は映らなかつただろうに。
- ② 世の中にたえて桜のなかり□ば春の心はのどけからまし
もし世の中に全く桜というものがなかつたならば、春の人の心はのどかなものであつただろうに。(古今和歌集)

①	ましか
②	せ

2 次の傍線部を、助動詞の用法に注意して現代語訳せよ。

- ① いつはりのなき世なりせばいかにばかり人の言の葉うれしからまし。
*「人」「あなた」と訳す。(古今和歌集)

- もし嘘うそというものが無い世の中であつたならば、どんなにかあなたの言葉がうれしかっただろうに。
- ② これに何を書かまし。
これに何を書こうかしら。(枕草子)
- ③ おのが行かまほしき所へ往ぬ。
自分が行きたい所へ行つてしまった。(竹取物語)

①	もし嘘 <small>うそ</small> というものが無い世の中であつたならば、どんなにかあなたの言葉がうれしかっただろうに。
②	何を書こうかしら
③	行きたい所

解説

1 反実仮想の構文を確認する問題

反実仮想は「Aましかば、Bまし」「Aませば、Bまし」「Aせば、Bまし」が代表的な三つの形である。入試問題ではこのような空欄補充の問題がもつとも多い。

①の場合、「鏡に色・形あら□ば、映らざらまし」だから、「ましか」か「ませ」か「せ」が入る。このうち、「ましか」が正解で、他がダメなのは単純な理由による。「ませ」と「せ」は和歌でしか使わないからだ。一目見るとわかるが、①は和歌ではない。したがって、解答は「ましか」以外には不可となる。

②今度は和歌だが、和歌の場合は「ましか」でも「ませ」でも「せ」でもかまわない。三択になるからたいへんのだが、実は見かけ倒しだ。和歌には「五・七・五・七・七」という定型があるので、字数を数えると簡単にどれがいいかがわかる。「なかり□ば」は五音でないといけないから、空欄は一音の「せ」しかない。

2 「まし」「まほし」の現代語訳の練習問題

①は「AせばBまし」だから、反実仮想の用法。「もしAだったならば、Bだっただろうに」という基本の枠組みに当てはめれば、解答は容易だと思ふ。

「いつはり」は「嘘うそ」。「世」の下の「なり」は断定の助動詞。「いかにかり」は「どんなにか」。「人」は和歌の中では「歌の作者の」恋人や配偶者」の意味でよく使われる。この歌は「恋」の歌で、作者が恋人のもとに贈つたもの。だから「あなた」と訳す。「うれしから」はもちろん形容詞「うれし」の未然形である。

②は「まし」の上に「何」という疑問語があるから、「ためらいの意志」「何を書こうかしら」と訳す。「何を書こうかな」「何を書いたものだろうか」でもよい。

「まし」の上にくる疑問語は大まかに二種類ある。一つは、現代語でいうと「いつ・どこ・だれ・なに・どのように」にあたるようなことば。もう一つは疑問の係助詞「や」である。たとえば「尼にやならまし」。これは「まし」の上に「や」があるので、ためらいの意志。「尼にやならまし」と訳す。

③「まほし」については、希望の助動詞で「〜たい・〜てほしい」と訳し、活用が形容詞型だと知っていれば十分である。ただし、「あらまほし」の形だけは気を付けよう。これは「ありたい・あつてほしい」と訳せるときは動詞+希望の助動詞。「理想的だ」と訳せるときは形容詞である。

㊦ 家居のつきづきしく、あらまほしきこそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。

㊦ 住居がその主人に似つかわしく、理想的なのは、この世に生きている間の一時的な住まいだとは思つても、興味深いものである。

この場合、「あらまほしき」を「あつてほしい」と訳すと不自然である。不自然なら「あらまほし」で一語の形容詞とみる。

3 断定「なり」の意味を判別する問題

①は名詞「もの」に付くから断定の助動詞。「」の前で、係り結びも出ていないから終止形である。

②も名詞「駿河」に付くから断定だが、「駿河」が場所をあらわす名詞である点に注意したい。本冊48ページでもふれたように、存在の「なり」は場所（方向）をあらわす名詞に付くのが原則。大きく分けると、二つの形がある。まとめておこう。

●存在の「なり」

「場所」なる「名詞」

「場所」なりける「名詞」

例 沖なる舟

■ 沖にある船

沖なりける舟

沖にあつた舟

「駿河なる富士の高嶺」は「場所なる名詞」の形に該当するから、解答は「存在」。「富士」という名詞（体言）の上にあるので連体形である。

4 今度は伝聞推定「なり」の意味を判別する問題

①はサ変動詞「す」の終止形に付くから伝聞推定。本冊でもふれたように、「音」を聞いている場合は推定にするのが原則。

伝聞推定の「なり」は「音あり」が語源といわれ、「こんな音がするから、〜のようだ」という聴覚による推定をあらわす。たとえば、「外で衣

3 次の傍線部の助動詞「なり」の意味（A）と活用形（B）を答えよ。

① 秋の月は限りなくめでたきものなり。
（徒然草）

② 駿河なる富士の高嶺
（万葉集）

②	①
A	A
存在	断定
B	B
連体形	終止形

4 次の傍線部の助動詞「なり」の意味（A）と活用形（B）を答えよ。

① 楫の音ぞほのかにすなる。
（万葉集）

② また聞けば、侍従の大納言の御女なくなり給ひぬなり。
（更級日記）

②	①
A	A
伝聞	推定
B	B
終止形	連体形

5 次の傍線部を「なり」の意味に注意して現代語訳せよ。

① 家なる妹。
（万葉集）

② たたみをそよそよと踏みて、人來なり。
（十訓抄）

①	②
家にいる	来るようだ

6 断定・存在の「なり」と伝聞推定の「なり」を識別する問題

- ①はサ行変格活用動詞「す」の連体形「する」に付いているから、断定。
- ②は同じサ行変格活用でも終止形「す」に付くから、伝聞推定。
- ③は上の「ある」が「あん」のように撥音便はつおんべんになつてゐる。④は「なる」(断定の助動詞)が「なん」と撥音便になつた上に、「ん」を書かない無表記の形。これでは何形に付いてゐるのかわからないが、次のことを記憶しておくと便利である。

●撥音便・撥音便無表記に付く「なり」

(1) 撥音便(ん) + なり ∴ 伝聞推定

例 あんなり

なんなり

(2) 撥音便無表記(ア段音) + なり ∴ 伝聞推定

例 あ(a)なり

な(na)なり

③は「あんなる」で、「なり」が「ん」に付くから、伝聞推定。「ん」につく「なり」は100パーセント伝聞推定と覚えておこう。

④は「な(na)なり」で、「なり」が「a段音」に付くから、伝聞推定。「a段音」に付く「なり」も100パーセント伝聞推定と覚えておこう。

6 次の傍線部の助動詞「なり」が、断定・存在の意味をもつものならA、伝聞推定の意味をもつものならBと答えよ。

- ① 男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり。
男も書くとかいう日記といふものを、女もしてみようと書いて書くのである。
(土佐日記)
- ② 妻戸を、やはら、かい放つ音すなり。
開き戸をそっと開け放つ音がするようだ。
(堤中納言物語)
- ③ 信濃にあんなる木曾路川。
信濃にあるとかいう木曾路川。
(平家物語)
- ④ 神代より世にあることを記しおきけるななり。
神代より世にあることを記しおきけるななり。
(源氏物語)

①	A
②	B
③	B
④	B

7 次の各文中から断定の助動詞を抜き出し(A)、その活用形を答えよ(B)。

- ① 世には、心得ぬことの多きなり。
世間にはわけのわからないことが多いものだ。
(徒然草)
- ② おのが身はこの国の人にもあらず。
私はこの世界の人間ではない。
(竹取物語)
- ③ まだ、いと下臈げらふに侍りし時、あはれと思ふ人侍りき。
まだたいそう低い身分でございました時、いとしいと思う人がございました。
(源氏物語)

③	②	①
A	A	A
に	に	なり
B	B	B
連用形	連用形	終止形

7 断定の「なり」の理解を深める問題

①は「多きなり」の「なり」が、形容詞「多し」の連体形に付いてゐる。したがつて「なり」は断定。「」の上だから終止形である。

②は「に」が断定の助動詞「なり」の連用形。本冊48ページの「こ」がポイントでもふれたように、断定の連用形「に」は、「に+あり」の形であらわれるのが原則である。「に」と「あり」の間に、助詞がはさまつてゐることが多い。

●「に」が断定になる場合Ⅰ

例 花にこそあれ。花である。

花にやあらむ。花であろうか。

また、③の「に侍り」のように、「に」の下にくる「あり」が敬語になつてゐる場合もある。

●「に」が断定になる場合Ⅱ

(1) に・侍り(候ふ)

例 花にて侍り。花でございます。

花にて候ふ。花でございます。

(2) に・おはす(おはします)

例 僧にておはす。僧でいらっしゃる。

帝にておはします。天皇でいらっしゃる。

③は(1)の場合にあたる。

8 次の傍線部を現代語訳せよ。

① 山陰の暗がりたる所を見れば、螢はおどろくまで照らすめり。
(蜻蛉日記)

山陰の暗がりになっている所を見ると、螢はこちろがはっとするほど照らしているようだ。

② 大道、直きこと、髪のごとし。
(洛陽道)

大道りがまっすぐであることは、髪のもつようだ。

①	照らしているようだ(照らすようだ)
②	髪の毛のようだ

8 「めり」と「ごとし」の意味を確認する問題

まず①。「めり」は「見あり」が語源といわれ、「見たところ、このようだ」という意味をもつ。①は、「見たところ、螢がはっとするほど照らしているようだ」。見た目を問題にするので、視覚による推定と言われることもある。

②の「ごとし」は比況の助動詞。「比況」は「比喻」と同じで、あるものを他のものにたとえること。②は「大道(大通り)」を、ぴんと引っぱった「髪の毛」にたとえている。

9 次の和歌を読み、説明文の空欄をうめよ。

夕されば衣手寒しみよしのの吉野の山にみ雪降るらし

(古今和歌集)

「夕されば」は①という意味。「衣手」は「袖」という意味である。「みよしのの吉野の山」は単に「吉野山」と訳し、「み雪」も「雪」と訳せばよい。この和歌の意味は「①袖が寒い。吉野山に雪が②」ということになる。

助動詞「らし」の意味は根拠のある推定で、この例のようにもっぱら③の中で用いる。この歌では「みよしのの吉野の山にみ雪降るらし」というのが推定する内容。「夕されば衣手寒し」というのが、推定の根拠となっている。だから、根拠のある推定というのである。

①	夕方になると
②	降っているらしい
③	和歌

9 「らし」の用法を確認する問題

「らし」は和歌で用いる「推定」の助動詞であるということ。それから、「らしい」と訳すということ。この二点をおさえておけば十分である。

「夕されば」は類出の熟語。「夕方になると」と訳す。「春されば」「秋されば」「冬されば」などということもある。

